

学部・研究科等の現況調査表

教 育

平成20年6月

鳴門教育大学

目 次

1. 学校教育学部	1 - 1
2. 学校教育研究科	2 - 1

1. 学校教育学部

I	学校教育学部 of 教育目的と特徴	1 - 2
II	分析項目ごとの水準の判断	1 - 3
	分析項目 I 教育の実施体制	1 - 3
	分析項目 II 教育内容	1 - 6
	分析項目 III 教育方法	1 - 10
	分析項目 IV 学業の成果	1 - 14
	分析項目 V 進路・就職の状況	1 - 18
III	質の向上度の判断	1 - 21

I 学校教育学部の実教育目的と特徴

1 学校教育学部の目的

学校教育学部の目的は、学則第 29 条において「学校教育学部は、学術の中心として広く豊かな知識を授けるとともに、学校教育に関する専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開しうる優れた初等教育教員及び中学校教員を養成することを目的とする。」と定めている。

また、中期目標では「教員としての必要な基礎的・実践的な資質や能力を習得し、広い視野に立って教育活動を実施し、地域の教育課題に応え、教育の改善に役立つことのできる教員の養成を行うこと」と定めている。

2 学校教育学部の特徴

(1)教育の実施体制

- ①教育実践学を中核とする教員養成コア・カリキュラムの構築及び学部・大学院の 6 年間を見通した教員養成の実施
- ②教員の質の向上を図るための評価
- ③教育内容の質の向上を図る教材開発、学習指導法の改善に向けた取組

(2)教育内容

- ①実地教育における 4 年間を通した実践型重視の教育課程
- ②複数免許取得を可能とする時間割編成
- ③教育内容の充実を図るため、社会のニーズに即した教育課程、教育方法、成績評価等の改善・実施

(3)教育方法

- ①大学設置基準を上回る教員による少人数教育の実施
- ②適切でバランスのとれた授業形態（講義、演習、実験・実習・実技）

3 入学者の状況

学校教育学部の入学定員は 100 人であり、過去 4 年間における定員充足率は、平均 117%である。

4 想定する関係者とその期待

本学では、初等中等教育における教育専門職をめざす学部生・大学院生、卒業生・修了生、教育委員会等教育行政関係者及び国内外の学校現場の教員並びに学校で学ぶ児童・生徒とその保護者及び地域社会を関係者として想定している。

これらの関係者が本学に対して期待することは、人間性豊かで、実践的指導力を持ち、学校現場における問題解決能力を持った優れた教員を養成することである。

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目 I 教育の実施体制

(1) 観点ごとの分析

観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

学校教育学部の基本的組織の編成は、学部の教育目的に基づき、初等教育教員及び中学校教員等を養成するために4専修を置き、小学校教育専修及び中学校教育専修の下に、特定の分野についての専門性を深めるため、21コースを置いている（貼付資料学1-1-1）。

学校教育学部の入学定員は100人である。過去4年間の入学定員に対する定員充足率は平均117%であり、入学定員を超えているが大幅に超えている状況ではない。

教員組織は、「鳴門教育大学部組織運営規則」に基づき、第1部から第5部に分けて編成し、さらにそれぞれの部を構成する組織として17の講座を設けている（貼付資料学1-1-2）。

学校教育学部を担当する教員数は、大学設置基準に示された専任教員数

(55人)に対し、それを上回る158人(内教授76人)を擁し、基準を十分に満たすとともに、課程認定上の教員を適切に配置している。

学校教育学部の教育目的を達成するため、全学的なセンターとして、地域連携センター、実技教育研究指導センター、高度情報研究教育センター及び心身健康研究教育センターの4センターを設置しているほか、現代社会の教育ニーズに応えるため時限的措置として、小学校英語教育センター及び教員教育国際協力センターの2センターを設置している。

資料学1-1-1 「教育・研究組織図」(学部)

学校教育学部	幼児教育専修	
		学校教育コース
	小学校教育専修	国語科教育コース
		英語科教育コース
		社会科教育コース
		算数科教育コース
		理科教育コース
		音楽科教育コース
		図画工作科教育コース
		体育科教育コース
		技術科教育コース
		家庭科教育コース
	中学校教育専修	国語科教育コース
		英語科教育コース
		社会科教育コース
		数学科教育コース
		理科教育コース
		音楽科教育コース
		美術科教育コース
		保健体育科教育コース
		技術科教育コース
		家庭科教育コース
	障害児教育専修	

(出典 ウェブページ[大学概要 教育・研究組織図(学部)])

URL http://www.naruto-u.ac.jp/01_soumu/0102_kikaku/sosiki-gakubu.htm

資料学1-1-2 「鳴門教育大学部組織運営規則」(第1・2条抜粋)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人鳴門教育大学学則(平成16年学則第1号。以下「学則」という。)

第19条の規定に基づき、鳴門教育大学(以下「本学」という。)の部の組織及び運営等について、必要な事項を定める。

(組織)

第2条 本学の部及び部を構成する講座は、次のとおりとする。

部	部を構成する講座
第1部	人間形成講座、学校改善講座、授業開発講座、教育臨床講座、幼年発達支援講座、特別支援教育講座
第2部	総合学習開発講座、言語系(国語)教育講座、言語系(英語)教育講座、社会系教育講座
第3部	自然系(数学)教育講座、自然系(理科)教育講座
第4部	芸術系(音楽)教育講座、芸術系(美術)教育講座
第5部	生活・健康系(保健体育)教育講座、生活・健康系(技術)教育講座、生活・健康系(家庭)教育講座

- 2 地域連携センター，実技教育研究指導センター，高度情報研究教育センター，小学校英語教育センター，教員教育国際協力センター及び心身健康研究教育センターに所属する教員は，それぞれの研究分野に応じて，前項のいずれかの一部の部に併任するものとする。

〔出典 ウェブページ 〔広報・公開 規則集 管理運営 鳴門教育大学部組織運営規則〕〕

URL <https://www.naruto-u.ac.jp/kisoku/img/02kanriune/206.pdf>

観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

（観点に係る状況）

学校教育学部における教育内容，教育方法の改善に向けて取り組む体制として，学部教務委員会の下に「ファカルティ・ディベロップメント（FD）推進事業専門部会」を設置し，平成 16 年度以降，講演会やシンポジウムを開催するほか，「学部授業改善のための FD ワークショップ」，「学部の公開授業週間」，「特別公開授業」及び「授業研究会」等の事業を実施している。これらの事業結果は，「ファカルティ・ディベロップメント推進事業実施報告書」として刊行し，改善のための提言を行っている。

また，「学生による授業評価専門部会」では，学生による授業評価を毎学期実施し，アンケート結果を各教員にフィードバックするとともに，その分析・評価と授業改善の具体策を「学生による授業評価実施報告書」にまとめ，公表している。

さらに，平成 19 年度から，これらのシステムが教育の質の向上や改善に結びつけるシステムとして機能しているかを評価するため，評価委員会の下に，学外委員を含めた「教育評価部会」を設置し，評価を実施し，その評価結果をウェブページに公開している（[貼付資料学 1－2－1](#)）。

このような体制に基づき，大学全体として教育内容・教育方法及び教育の質の向上への改善に努め，学部・大学院の授業をととした実践研究の成果を研究論考集「鳴門教育大学授業実践研究」にまとめるとともに，平成 17 年度から教員養成コア・カリキュラム（教育実践コア科目等）を開発・導入した（[貼付資料学 1－2－2](#)）。

資料学 1－2－1 教育・研究評価結果報告書

Naruto University of Education

鳴門教育大学

教育, 研究評価結果報告書

TOP> 法人情報> 教育, 研究評価結果報告書

○ 教育評価結果報告書

本学では，平成19年度に本学における教育の質の向上や改善について，外部者を含めた評価を実施するため，評価委員会教育評価部会を設置しました。平成19年度は，以下の評価事項について，評価を実施しており，その評価結果を公開しています。

- 1 各事業年度に係る業務の実績
- 2 講座及び教員の自己点検・評価，教育・研究活動等の業績
- 3 学部学生・大学院生による授業評価
- 4 ファカルティ・ディベロップメント推進事業

現在，評価委員会教育評価部会からの教育の質の向上への改善策の提案を受けて，大学全体で取り組んでいます。

教育評価結果報告書 (PDF)

【この件に関するお問い合わせ先】
総務部企画課企画・評価・広報チーム
TEL:088/68716031
E-mail: skikikaku@gm.naruto-u.ac.jp
[個人情報の保護について](#)

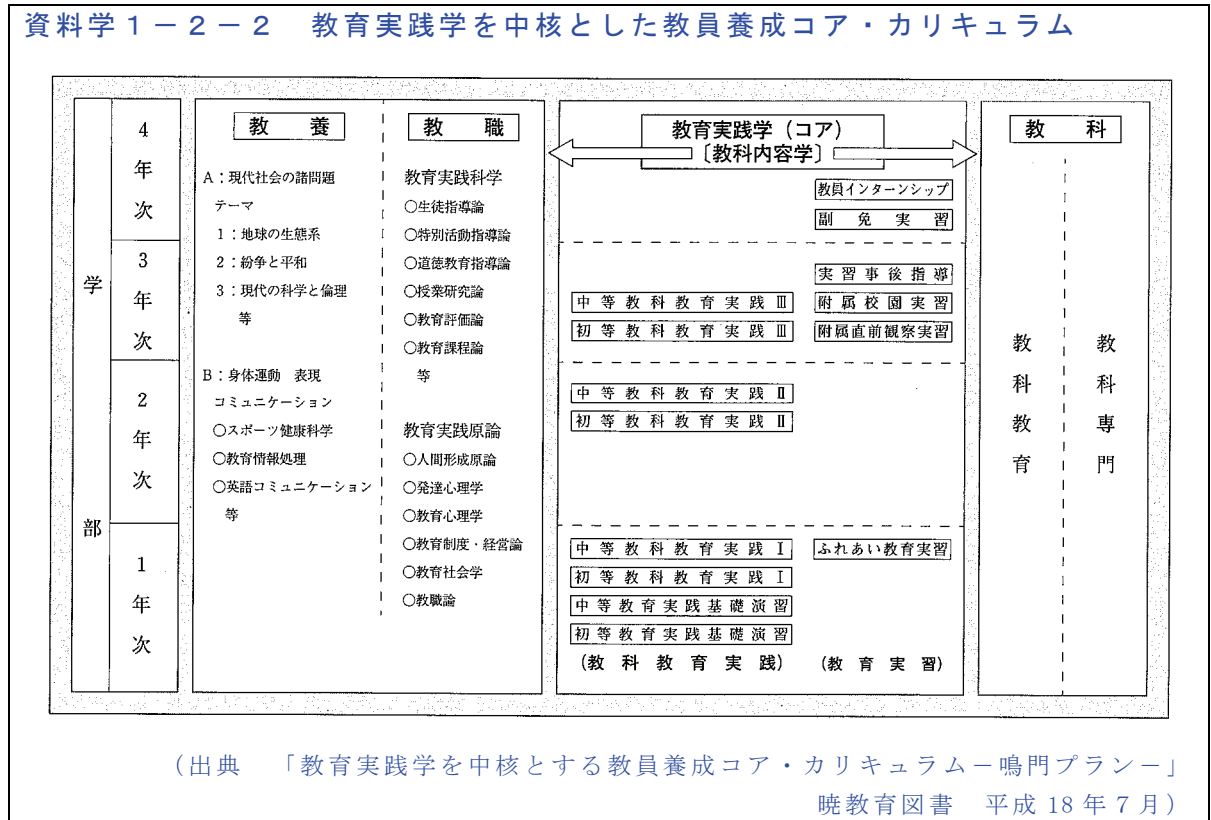
〒772-8502
徳島県鳴門市鳴門町
高島字中島748番地
国立大学法人鳴門教育大学

Copyright(c) 2006 Naruto University of Education. All rights reserved.

〔出典：ウェブページ 〔法人情報〕〕

URL: http://www.naruto-u.ac.jp/01_soumu/0102_kikaku/kyouiku-kenkyuhyouka.html

資料学 1-2-2 教育実践学を中核とした教員養成コア・カリキュラム



(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

基本的組織の構成について、学校教育学部教育組織及び教員組織は、教育目的に即した構成となっており、教員配置についても、大学設置基準を大きく上回っている。学校教育学部を支援するセンターについても、従来からの4センターに加えて、現代社会の教育ニーズに応えるため、独自に2センターを時限的に設置している。学生数については、入学定員をやや上回っている。

教育内容、教育方法の改善に向けて、FD推進事業専門部会、学生による授業評価専門部会や学外委員を交えた教育評価部会等の全学的体制を構築し、これらにより、学外者を含めた「学部授業改善のためのFDワークショップ」、「学部の公開授業週間」、「特別公開授業」及び「授業研究会」等を実施した。その成果として、平成17年度から実践力を培うための教員養成コア・カリキュラム（教育実践コア科目等）を開設し、学生の早期からの教職への意識高揚や、学校現場に対する理解を深めた。

以上のことから、「期待される水準を上回る」と判断できる。

分析項目Ⅱ 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点 教育課程の編成

(観点に係る状況)

学校教育学部においては、教員としての必要な基礎的・実践的な資質や能力を習得し、広い視野に立って教育活動を実施し、地域の教育課題に応え、教育の改善に役立つことのできる教員の養成を行うことを目的として、教育課程を教養基礎科目、教育実践コア科目、教職共通科目、専修専門科目及び卒業研究に区分し、体系的に編成している（貼付資料学2-1-1～3）。

また、複数免許の取得が可能な時間割編成にするとともに、各々の授業の目的・主旨・計画・評価基準等の内容を、シラバスに明記し学生に周知している。

資料学2-1-1 「教育課程」

第1表 各専修別・授業科目区分等別の所要修得単位数一覧表

(学校教育教員養成課程)

区 分		幼児教育専修	小学校教育専修	中学校教育専修	障害児教育専修
教養基礎科目	現代社会の諸問題	6	8	8	8
	身体運動・表現コミュニケーション	14	14	14	14
	健康・スポーツ科学Ⅰ・Ⅱ 英語リーディングⅠ・Ⅱ 英語コミュニケーションⅠ～Ⅴ 基礎情報教育 実践情報教育Ⅰ～Ⅲ				
	計	20	22	22	22
教育実践コア科目	幼児教育実践基礎演習 幼児教育実践基礎演習 初等中等教育実践Ⅰ・Ⅱ 初等中等教科教育実践Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 特別支援教育実践基礎演習 特別支援教育実践Ⅰ 特別支援教育実践Ⅱ	5	8	8	12
	第一欄 教職の意義等に関する科目	2	2	2	2
	第二欄 教育の基礎理論に関する科目	8	6	6	6
	第四欄 教育課程及び指導法に関する科目 生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	36 6	30 4	24 4	26 4
教職共通科目	第五欄 総合演習	2	2	2	2
	第六欄 教育実習	11	7	7	9
	計	65	51	45	49
専修専門科目	教職の専門科目	0	4	4	
	教科の専門科目	8	28	34	10
	乳幼児教育科目	26			
	特別支援教育科目				26
計		34	32	38	36
卒業研究		4	4	4	4
自由選択科目		0	11	11	5
合 計		128	128	128	128

(注1) 自由選択科目は、教職基礎科目、教育実践コア科目、教職共通科目及び専修専門科目の授業科目の中から自由に選択することができます。(所属する専修等以外の授業科目でも可) ただし、「必修・選択等の区分」の「自由」科目は卒業要件には含まれません。

(出典 「平成19年度学部履修の手引」)

資料学 2-1-2 「授業科目の区分及び内容」

授業科目 の区分	内 容
教養基礎 科目	高等学校までの学習で獲得した知識、大学で習得する知識を関連づけ、統合して、現代社会の諸問題に主体的に向き合うことができるようにするための、学問横断的な科目を中心とした「現代社会の諸問題」領域と、心身の健康の獲得及び自己表現力とコミュニケーション能力の習得を目的とした「身体運動・表現コミュニケーション」領域の2領域において、授業科目を開設する。
教育実践 コア科目	教科の成立と人間理解を通して、教師という職業について様々な側面から理解し、あるべき教師像を考える「教育実践基礎演習」と、学習指導要領を基盤とする教科内容の柱立ての理解、授業構成や指導方法、子ども理解など、教師として必要な実践的指導力を育成する「教科教育実践」で構成したもので、「教育実習」と並ぶ教育実践のためのコアとなる科目として開設する。
教職共通 科目	教職に関する専門科目で、学校教育の理論的・実践的分野に関わる科目を含み、特に子どもとのふれあいを重視するための授業科目として、実地教育を開設する。
専修専門 科目	学生の専修・教育コースに応じて、それぞれの分野での指導能力を高め、自分の得意分野を確立し、教育実践・教育研究を進めていく能力と態度を培うための授業科目を開設する。
卒業研究	教職基礎科目、教職共通科目及び専修専門科目などの学習を基に、学校教育の諸問題に対して、その状況を的確に把握・分析し、解決できる能力の育成を図るために、自らが課題を設定して研究を行う。

(出典 「平成 19 年度学部履修の手引」)

資料学 2-1-3 「各専修別・授業科目区分等別の所要修得単位数一覧表」(抜粋)

第2表 (鳴門教育大学学校教育学部履修規程別表第4 (第5条関係) 抜粋)

		【幼児教育専修】					
区 分	授 業 科 目	単位数	必修・選択等の区分			授 業 方 法	履 修 方 法
			必修	選択	自由		
教 養	日本国憲法	2	2			講義	1 2単位を修得すること。
	環境人類の生存	2	2			講義	左欄から、4単位以上修得すること。(5主 題群の中から2主題群 を選択すること。)
	科学と環境 開発と環境	2	2			講義	
	紛争と平和 人口と食糧問題	2	2			講義	
	科学倫理	2	2			講義	
	生体メカニズムと生命倫理	2	2			講義	1・2・3
	科学技術と社会	2	2			講義	1・2・3
	市民社会と福祉	2	2			講義	1・2・3
	人権確立の歴史	2	2			講義	1・2・3
	市民社会と公共性	2	2			講義	1・2・3
	芸術文化	2	2			講義	1・2・3
	西洋の文化研究	2	2			講義	1・2・3
	東洋の文化研究	2	2			講義	1・2・3
	阿波学(地域文化研究)	2	2			講義	1・2・3
基 礎	日本事情・日本文化	2		2		講義	1・2 (外国人留学生に限る。)
	健康・スポーツ科学Ⅰ	2	2			講義実習	左欄から、4単位を 修得すること。
	健康・スポーツ科学Ⅱ	2	2			講義実習	
	基礎情報教育	2	2			実習	左欄から、4単位以上 修得すること。
	実践情報教育Ⅰ	2	2			演習	
	実践情報教育Ⅱ	2	2			演習	
	実践情報教育Ⅲ	2	2			演習	
	英語コミュニケーションⅠ	1	1			演習	左欄から、6単位以上 修得すること。
	英語コミュニケーションⅡ	1	1			演習	
	英語コミュニケーションⅢ	1		1		演習	
	英語コミュニケーションⅣ	1		2		演習	
	英語コミュニケーションⅤ	1		1		演習	
	英語リーディングⅠ	1	1			演習	
	英語リーディングⅡ	1	1			演習	
	英語リーディングⅢ	1		1		演習	
	英語リーディングⅣ	1		1		演習	
	英会話	1		1		演習	
専 修	ドイツ語Ⅰ	2		2		演習	1
	ドイツ語Ⅱ	2		2		演習	2
	フランス語Ⅰ	2		2		演習	1
	フランス語Ⅱ	2		2		演習	2
	中国語Ⅰ	2		2		演習	1・2・3
	中国語Ⅱ	2		2		演習	2・3・4
	表現コミュニケーション基礎演習	1		1		演習	1
	初等英語科教育論	2			2	講義	1・2・3
	初等英語	2			2	講義	1・2・3

(出典 「平成 19 年度学部履修の手引」)

観点 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

学校教育学部においては、学生の多様なニーズに対応した教育を実現するために、幼児・小学校・中学校・障害児の各専修の科目履修に加えて、専修を越えた科目履修が可能となるように配慮しており、卒業時には複数の免許状が取得可能としている(貼付資料学2-2-1)。

さらに、教育上有益と認める場合は、60単位を超えない範囲で、単位互換による認定、大学以外の教育施設等における学修、入学前の既修得単位の認定制度を設け、本学の卒業要件として認定することが可能である。単位互換については、放送大学及び徳島大学と協定を締結している。

一方、社会からの要請に対応した教育を実現するために、保育士・学校図書館司書教諭・学芸員の資格取得のための授業を開講するとともに、聴講生・研究生・科目等履修生の受入制度を設けている(貼付資料学2-2-2, 3)。

「教員インターンシップ」については、実地教育における選択科目とし、平成20年度から単位化することとしている。

さらに、編入学は、欠員のある場合に限り、選考の上、短期大学や高等専門学校を卒業した者を受け入れる制度を設けている。

資料学2-2-1 「教育職員免許状」

第4 教育職員免許状

1 卒業の要件を満たすことによって取得することができる教育職員免許状

本学校教育学部は、幼稚園教員、小学校教員、中学校教員及び特別支援学校教員の養成を目的とするものであり、その卒業の要件を満たすことにより、次の教育職員免許状が取得することができるように教育課程を編成しています。

2 卒業の要件以外の単位を併せて修得することによって取得することができる教育職員免許状

本学においては、卒業の要件を満たすことにより前記1の教育職員免許状が取得できるほか、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則の定めるところに従い、所定の単位数を修得することによって取得できる教育職員免許状は、次のとおりです。

課程	専修等の区分	教育職員免許状の種類
学校教育専修	幼児教育専修	幼稚園教諭一種免許状及び小学校教諭二種免許状
	小学校教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状の免許教科のうち国語、英語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術又は家庭のいずれか一つの免許状
	国語科教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状(国語)
	英語科教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状(英語)
	社会科教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状(社会)
	算数科教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状(数学)
	理科教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状(理科)
	音楽科教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状(音楽)
	図画工作科教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状(美術)
	体育科教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状(保健体育)
	技術科教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状(技術)
	家庭科教育コース	小学校教諭一種免許状及び中学校教諭二種免許状(家庭)
	国語科教育コース	中学校教諭一種免許状(国語)、高等学校教諭一種免許状(国語)及び小学校教諭二種免許状
	英語科教育コース	中学校教諭一種免許状(英語)、高等学校教諭一種免許状(英語)及び小学校教諭二種免許状
中学校養成課程	社会科教育コース	中学校教諭一種免許状(社会)及び小学校教諭二種免許状
	数学科教育コース	中学校教諭一種免許状(数学)、高等学校教諭一種免許状(数学)及び小学校教諭二種免許状
	理科教育コース	中学校教諭一種免許状(理科)、高等学校教諭一種免許状(理科)及び小学校教諭二種免許状
	音楽科教育コース	中学校教諭一種免許状(音楽)、高等学校教諭一種免許状(音楽)及び小学校教諭二種免許状
	美術科教育コース	中学校教諭一種免許状(美術)、高等学校教諭一種免許状(美術)及び小学校教諭二種免許状
	保健体育科教育コース	中学校教諭一種免許状(保健体育)、高等学校教諭一種免許状(保健体育)及び小学校教諭二種免許状
	技術科教育コース	中学校教諭一種免許状(技術)、高等学校教諭一種免許状(工業)及び小学校教諭二種免許状
	家庭科教育コース	中学校教諭一種免許状(家庭)、高等学校教諭一種免許状(家庭)及び小学校教諭二種免許状
	障害児教育専修	小学校教諭一種免許状及び特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者に関する教育の領域、肢体不自由者に関する教育の領域、病弱者に関する教育の領域)

小学校教諭(一種・二種)免許状

中学校教諭(一種・二種)免許状

(国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語)

高等学校教諭一種免許状

(国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、情報、工業、英語)

特別支援学校教諭(一種・二種)免許状(知的障害者に関する教育の領域、肢体不自由者に関する教育の領域、病弱者に関する教育の領域)

幼稚園教諭(一種・二種)免許状

ただし、上記教育職員免許状は授業時間割上の制約によって、希望する教育職員免許状が取得できるとは限りません。また、教育課程(教育実習)の関係で、所属する専修により取得できない(制限される)教育職員免許状を次に掲げているので、履修計画に当たっては十分注意してください。

(1) 幼児教育専修の学生が取得できない教育職員免許状

中学校教諭(一種・二種)免許状

高等学校教諭一種免許状

特別支援学校教諭(一種・二種)免許状

(2) 小学校教育専修の学生が取得できない教育職員免許状

特別支援学校教諭(一種・二種)免許状を取得する場合、高等学校教諭一種免許状

高等学校教諭一種免許状を取得する場合、特別支援学校教諭(一種・二種)免許状

(3) 中学校教育専修の学生が取得できない教育職員免許状

特別支援学校教諭(一種・二種)免許状を取得する場合、幼稚園教諭(一種・二種)免許状

幼稚園教諭(一種・二種)免許状を取得する場合、特別支援学校教諭(一種・二種)免許状

(4) 障害児教育専修の学生が取得できない教育職員免許状

高等学校教諭一種免許状

(出典 「平成19年度学部履修の手引」)

資料学2-2-2 「保育士・学校図書館司書教諭・学芸員（教育職員免許以外の資格取得状況）」

平成19年度

保育士資格		学校図書館司書教諭資格		学芸員資格	
学部生 (幼児教育専修学生)	大学院生	学部生	大学院生	学部生	大学院生
5人	—	16人	7人	21人	6人

(出典 教務課資料:「保育士・学校図書館司書教諭・学芸員（教育職員免許状以外の資格取得状況）」)

資料学2-2-3 「科目等履修生等数」

(単位:人)

	平成17年度				平成18年度				平成19年度			
	学部		大学院		学部		大学院		学部		大学院	
	うち一般社会人学生		うち一般社会人学生		うち一般社会人学生		うち一般社会人学生		うち一般社会人学生		うち一般社会人学生	
聴講生	4	0	1	0	3	0	1	0	4	0	2	0
科目等履修生	12	2	5	0	6	2	2	0	5	1	3	1
研究生	0	0	13	5	3	1	22	4	2	0	15	4
計	16	2	19	5	12	3	25	4	11	1	20	5

※1 調査は毎年度5月1日現在

※2 一般社会人学生数は、それぞれ左欄の内数である。

(出典 教務課資料:「科目等履修生等数」)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

教育課程の編成については、教養基礎科目、教育実践コア科目、教職共通科目、専修専門科目及び卒業研究に区分し、幅広い基礎知識の上に立つ総合的な能力を習得できるよう体系的に編成している。

また、学生や社会の多様なニーズに即して、専修を越えた科目の履修、他大学との単位互換、諸資格の取得、聴講生・研究生・科目等履修生制度を設けており、受入状況からみて、これらの制度が活用されている。

以上のことから、「期待される水準を上回っている」と判断できる。

分析項目Ⅲ 教育方法

(1) 観点ごとの分析

観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点に係る状況)

学校教育学部は、教員に求められる力量を総合的に養うため、教養基礎科目及び教育実践コア科目は演習中心(教養基礎科目：演習 76%，教育実践コア科目：演習 98%)，教職共通科目及び専修専門科目は講義中心(教職共通科目：講義 69%，専修専門科目：講義 52%)と多様な授業形態をとっており，その割合は科目区分の性質に則した適切なバランスとなっている(貼付資料学3-1-1，1-6頁：貼付資料学2-1-1参照)。

学習指導法は授業内容に応じて次のような工夫を行っている。

「実地教育」では，大学の他の講義(初等中等教科教育実践Ⅰ～Ⅲ等)と関連性を持たせ，4年間を通じた体系的な編成としている。また，事後指導において授業映像データベースに蓄積された映像を活用している(貼付資料学3-1-2)。

さらに，「総合演習」では，教師に求められる創造性や協調性を養うために，少人数グループによるフィールド型授業形態を取り入れている(貼付資料学3-1-3)。平成19年度の履修者数及びそのグループごとの人数は，貼付資料3-1-4の通りである。

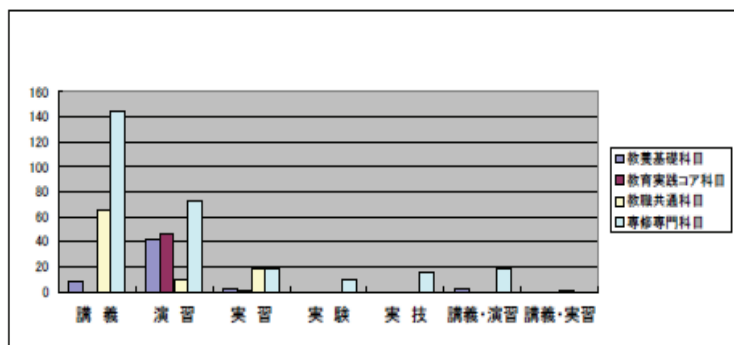
「英語コミュニケーション」では，嘱託外国人講師による少人数グループ教育を実施している。

「演習」，「実験」科目ではTAを活用し，教員に求められる知識とスキルを確実に定着させるように配慮している。

なお，各授業科目について，シラバス作成要領に基づいて授業の目標・計画ならびに評価基準等が作成されている。シラバスは紙媒体とウェブページにより公開し，学生は授業科目の選択及び学習準備，教員はガイダンス及び各授業の成績評価の際に活用している。

資料学3-1-1 「学校教育学部開設授業科目形態一覧」

区 分	講 義	演 習	実 習	実 験	実 技	講義・演習	講義・実習	計
教養基礎科目	8	42	3			2		55
教育実践コア科目		46	1					47
教職共通科目	65	9	19				1	94
専修専門科目	144	73	18	10	16	18		279
合 計	217	170	41	10	16	20	1	475



(出典 「平成19年度学部履修の手引」)

資料学3-1-2 「教育実践映像DB」



メインメニュー

ホーム
ドキュメント
ログイン

ドキュメント・マニュアル

- ユーザ登録の方法
- 映像データベースの使い方(基本編)
- 知の総合化ノートマニュアル

関連リンク



教育実習映像DB

- ▶ 授業対象の校種・学年 から探す
- ▶ 授業の教科・領域 から探す
- ▶ 授業者のタイプ実習生/現職教員 から探す

検索

検索

高度な検索

映像を見られない！

このサイトの映像を見るためには、Apple社のQuickTime 7が必要で、下のバナーをクリックしてQuickTimeをダウンロードしてください。

- 10/29 わたしの意見 (小学校-6年生-国語)
- 10/29 神様ってなあに わらぐつの中の... (小学校-5年生-国語)
- 10/26 てんびんとてこ (小学校-5年生-理科)
- 10/26 音の重なり的美しさを感じよう (小学校-5年生-音楽)
- 10/26 言葉のおもしろさ (小学校-4年生-国語)
- 10/26 ぼく (小学校-4年生-国語)
- 10/26 ハードル走 (小学校-4年生-体育)
- 10/26 ハッピーカード (小学校-4年生-図画工作)
- 10/26 買い物(英語) (小学校-3年生)
- 10/26 たんけんたい いろいろなお店へ (小学校-3年生-社会)

(出典「鳴門教育大学ウェブページ【学内専用】」)

資料学 3-1-3 「平成 19 年度学部授業概要」 （教育実践コア科目／初等中等教科教育実践Ⅰ 抜粋）

【学校教育学部（2005年度以降入学用） 教育実践コア科目】

05060310 初等中等教科教育実践Ⅰ (The Practical Teaching of Primary and Secondary School Subjects I)	
担当教員・所属 ・研究室番号	○草原 和博(社会系教育講座・A212) 青葉 暢子, 立岡 裕士, 田村 隆宏, 稲井 智義, 坂田 大輔
標準履修	学部1年
単位区分	開講時期 後期 水 1 授業形態 演習 単位数 2
備考	
キーワード	学習指導要領 同心円拡大 地域学習 努力, くふう 自覚, 愛情
連絡先・オフィスアワー	授業全体の運営に関する質問は, 草原が受け付けます。水曜日 10:40~12:10 個々の授業内容に関する質問は, 担当の先生にお願いします。

【授業の目的及び主旨・到達目標】

小学校社会科の授業を展開するための基礎的力量を, 第3・4学年社会科の教科内容の把握と指導過程の分析を通して習得させる。

(到達目標)

1. 小学校社会科の性格・意義を, 幼稚園や生活科との接続を踏まえて説明できる。
2. 第3・4学年の教科内容を形づくる基本概念を, 検定教科書に示された事例をもちいて説明できる。
3. 授業分析の視点と方法を習得し, その成果を応用して, 1時間の授業(計画書)を開発できる。
4. 子どもの先行知や発達特性をふまえて, また適切な指導技術を駆使して, 授業をシミュレートできる。

【授業計画】

週	授 業 の 内 容
1	幼稚園教育の特質と意義 (1)
2	幼児期教育の特質と意義 (2)
3	幼稚園教育の特質と意義 (3)
4	中学年社会科の教科指導の実践 (1) ……坂田
5	中学年社会科の教科指導の実践 (2) ……坂田
6	中学年社会科の目標とカリキュラム (1) - 同心円拡大カリキュラム ……草原
7	中学年社会科の目標とカリキュラム (2) - 環境拡大カリキュラム ……草原
8	中学年社会科の教科内容 (1) - 地理学: 地域の土地利用 - ……立岡
9	中学年社会科の教科内容 (2) - 地理学: 空間的見方と地図の特性 - ……立岡
10	中学年社会科の教科内容 (3) - 経済学: 政治の経済的役割 - ……青葉
11	中学年社会科の教科内容 (4) - 経済学: 公企業の供給する財とサービス - ……青葉
12	中学年社会科の教科指導 (1) - 地域の特色を理解させる ……草原
13	中学年社会科の教科指導 (2) - 警察・消防の社会的意味を理解させる - ……草原
14	中学年社会科の教科指導 (3) - 地理学の視点から地域の分化・変容を説明させる - ……草原
15	中学年社会科の教科指導 (4) - 経済学の視点から警察・消防の仕事を説明させる - ……草原

【履修上の注意事項】

授業の性格上, 欠席は認めない。特段の理由なく3回以上欠席したものは, 単位を認めないことがある。授業の受け手(子ども)から授業の作り手(教師)への視点の転換をはかって欲しい。

【成績評価方法】

持ち時間に比例して, 草原(40点), 立岡(20点), 青葉(20点), 坂田(20点)の持ち点で採点する。各教員の評価方法(レポート・試験・プレゼン等の有無, 評価基準など)については, 個別に指示があります。

【テキスト・参考文献】

授業時に適宜プリントを配布する。
参考書としては, 原田智仁編『社会科教育へのアプローチ社会教育法』現代教育社, を推薦する。

(出典 「平成 19 年度学部授業概要」)

資料学 3-1-4 平成 19 年度「総合演習」グループ別履修者数

「総合演習」グループ別履修者数

太田G	小西G	谷村G	近森G	藤村G	村川G	合 計
28人	23人	21人	15人	47人	11人	145人

(出典 教務課資料: 平成 19 年度「総合演習」グループ別履修者数)

観点 主体的な学習を促す取組

（観点到に係る状況）

学生の主体的な学習を支援するために、次のような体制と環境を整備している。

各授業担当教員はオフィスアワーを設定し、授業に関する質問・相談を受けるとともに、クラス担当教員は履修状況の把握並びに履修上の相談及び助言を行い、3年次からは指導教員を配置し、コース別、個別のきめ細やかな指導体制を築いている。

また、専修・コースごとに専修室を配置するとともに、高度情報研究教育センターをはじめ、各棟に端末室（24時間利用可）を、芸術棟には40室を超えるピアノ練習室（20時まで利用可）を、図書館（22時まで利用可）には研究個室やセミナー室をそれぞれ設置するなど便宜を図っている。さらに水曜の午後は、自主学習時間を確保するために、可能な限り授業を開講しないこととしている。

そのほか、実技教育研究指導センターにおいて補充的指導を実施している。個人の能力差が大きい実技に関しては、「グレード制」を設け、希望する学生には個々の能力に応じた指導を行い、達成度を認定している（貼付資料学3-2-1）。

一方、単位の実質化を実現するために、前述の学習・研究指導体制及び学習環境の整備に加えて、授業目的等をシラバスに明示している。

具体的な内容としては、シラバスに授業の目的及び主旨・到達目標、授業計画（学習内容）、履修上の注意事項、成績評価方法、テキスト・参考文献を明記することで、履修選択の便宜及び予習・復習の促進を図っている。

特に、講義科目については筆記試験を実施し、目標達成度を5段階で評定するなど、厳格な成績評価を行っている。

なお、学生は、評定と点数の相対的位置をウェブページで確認し、学びの成果が自己点検できるようになっている（貼付資料学3-2-2）。

資料学3-2-1 「実技教育研究指導センター活動状況」（抜粋）

6. 活動状況

(1) 音楽教育分野

① 音楽実技担当指導教員

職名	氏名	領域
准教授（専任）	木村正邦	声楽、（ピアノ）

② グレード認定とその基準

音楽教育分野では個々の学生の実技能力に応じてピアノと声楽のグレード認定を行っている。グレードは5級～1級までの5段階とし、1級を最高のグレードとする。学生は卒業までに各グレード3級以上を取得することが望ましい。なお、グレードテストは年間4回実施している。

グレード5級：初心者をはじめに目標とするよう設定されたロー・グレード

グレード4級：グレード3級を達成するためのステップとして設定されたロー・グレード

グレード3級：初等教員に最低限必要な実技能力として設定されたグレード

グレード2級：初等教員として望ましい実技能力として認定されたグレード

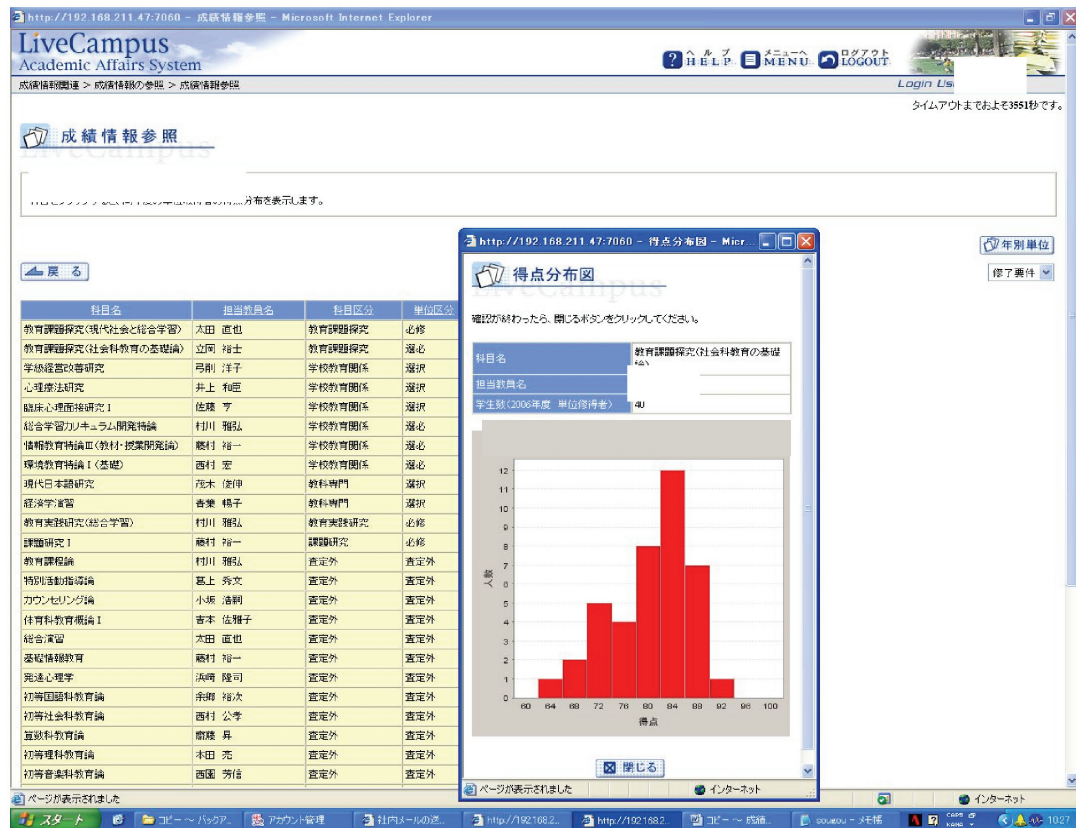
グレード1級：専任教員としても通用する程度の高水準の実技能力を要求されるグレード

グレードテストの内容

	ピ ア ノ	声 楽
5級	バイエル：49, 59, 62, 82, 96 （1曲選択、暗譜）	小学校共通教材1年～6年 （1曲選択、暗唱）
4級	バイエル：100, 101, 102, 103 （1曲選択、暗譜）	小学校共通教材1年～6年 （1曲選択、弾き歌い）
3級	バイエル：104, 105, 106 （当日1曲指定、暗譜）	小学校共通教材1年～6年 （3曲選択、当日1曲指定、弾き歌い）
2級	ソナチネ・アルバム（Ⅰ、Ⅱ）から第1楽章か終楽章又は同程度の曲（1曲選択、暗譜）	世界の愛唱歌や日本歌曲か、同レベルの古典イタリア歌曲（1曲選択、暗譜、弾き歌いも可）
1級	ソナタ・アルバム（Ⅰ、Ⅱ）から第1楽章か終楽章又は同程度の曲（1曲選択、除くソナチネアルバム掲載曲、暗譜）	3分程度以上の芸術歌曲全般（1曲選択、暗譜、伴奏者同伴のこと、オペラアリアも含む）

（出典 「鳴門教育大学実技教育研究18」）

資料学3-2-2 「在学生の方へ」ライブ・キャンパス（在学生専用） Academic Affair System



(出典 ウェブページ「[在学生の方へ]ライブ・キャンパス(在学生専用)」)

(2)分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

授業形態の組み合わせと学習指導法の工夫については、教員養成という本学の目的に相応しい、バランスの取れた授業科目と多様な授業形態としている。また、「実地教育」では授業映像データベースを活用し、「総合演習」では、少人数グループによるフィールド型授業形態を取り入れ、「英語コミュニケーション」では、嘱託外国人講師による少人数グループ教育を行っている。

主体的な学習を促す取組については、授業担当教員に加え、クラス担当教員や指導教員を配置し指導に当たるなど、個々の学生の履修に対する体制を整えている。また、学習・研究環境についても、自習のための環境を十分に整備し、研究個室やセミナー室等の利用時間について便宜を図っている。

さらに、単位の実質化に向けて、水曜の午後は、自主学習時間を確保するために、可能な限り授業を開講しないこととしている。また、前述の指導体制に加えて、シラバスで授業目的等の明確化を図るとともに、試験、レポート、授業への出席状況及び授業態度等を総合して評価を行い、単位の認定については、目標達成度を5段階で評定し、その旨は、シラバスに「成績評価方法」として明示している。

これらの学習指導法の工夫や主体的な学習を促す取組により、学生の学習意欲及び学習への関心が高まり、積極的に授業へ臨む姿勢が見られるなど効果があがっている。

以上のことから、「期待される水準を上回っている」と判断できる。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

教育の成果は、実地教育受講資格判定、単位修得、卒業及び学位取得、教育職員免許状一括申請件数、学生表彰の状況から判断することができる。

附属学校実習の受講資格は、教養基礎科目、教育実践コア科目、教職共通科目及び専修専門科目において、判定基準以上の単位を修得した学生に実地教育受講資格が与えられる(貼付資料学4-1-1)。過去4年間の実地教育受講資格判定状況は各年度とも95%を超えている(貼付資料学4-1-2)。

単位認定については、合格であるC判定以上の割合が85%を超えている(貼付資料学4-1-3)。

学位取得率については約93%、教育職員免許状一括申請件数については延べ421件である(貼付資料学4-1-4～5)。教育職員免許状以外の資格については、保育士、学校図書館司書教諭、学芸員の資格を取得している(1-9頁：貼付資料学2-2-2参照)。

また、学生表彰については、4年間で11件である(貼付資料学4-1-6)。

資料学4-1-1 「主免教育実習、副免教育実習、特別支援教育実習及び教員インターンシップの受講資格に関する申合せ」

7 主免教育実習、副免教育実習、特別支援教育実習及び教員インターンシップの受講資格に関する申合せ

1 主免教育実習の受講資格は、第3年次の8月初めにおいて、原則として次の表に定める単位数を修得している者とし、学校教育学部教務委員会において受講者を決定するものとする。

専修	授業科目等の区分 教養基礎科目	教育実践科目 教職共通科目	専修専門科目	総単位数
幼児教育専修	12単位	40単位	22単位	74単位
小学校教育専修	12単位	30単位	16単位	58単位
中学校教育専修	12単位	24単位	14単位	50単位
障害児教育専修	12単位	30単位	10単位	52単位

2 副免教育実習の受講資格は、主免教育実習を履修した者とする。

3 特別支援教育実習の受講資格は、特別支援教育科目の授業科目の中から、12単位以上を修得している者とする。

4 教員インターンシップの受講資格は、主免教育実習を履修し、教員を志望する者とする。

5 この申合せは、平成19年度入学者から適用する。

(出典 「平成19年度学部履修の手引き」)

資料学4-1-2 「実地教育受講資格判定結果調査」(学部)

	対象学生数	合格者	不合格者	合格率(%)
平成19年度	119	116	3	97.48
平成18年度	118	114	4	96.61
平成17年度	115	110	5	95.65
平成16年度	121	116	5	95.86

(出典 教務課資料：「実地教育受講資格判定調査」)

資料学 4－1－3 「平成 18 年度各授業科目区分の成績評価」（学部）

平成 18 年度各授業科目区分の成績評価（％）

		評定				
		S	A	B	C	D
学部	教養基礎科目	19	34	21	11	14
	教育実践コア科目	29	52	13	5	1
	教職共通科目	19	37	29	11	5
	専修専門科目	19	46	19	8	7
	自由選択科目	13	41	22	9	16

（出典 教務課資料：「平成 18 年度各授業科目区分の成績評価」）

資料学 4－1－4 「平成 19 年度学位取得率」（学士課程）

平成 19 年度学位取得率（学士課程）

4 年次生（人）	131
卒業生（人）	122
学位取得率（％）	93. 13

（出典 教務課資料：「平成 19 年度学位取得率」（学士課程））

資料学 4－1－5 「平成 19 年度教育職員免許状一括申請件数一覧表」（学部）

平成 19 年度教育職員免許状一括申請件数一覧表

大学名 鳴門教育大学

学部・学科・コース	申請 人数	免許教科	左の免許教科に係る免許状種別申請件数																	
			幼稚園			小学校			中学校			高等学校		養護			特別支援学校			計
			専修	1種	2種	専修	1種	2種	専修	1種	2種	専修	1種	専修	1種	2種	専修	1種	2種	
学校教育学部 学校教育教員養成課程	121			40			103	17										20		180
		国語								19	4		13							36
		社会								14	1									15
		地理歴史											10							10
		公民											11							11
		数学								13	7		11							31
		理科								11			11							22
		音楽								7			5							12
		美術								7			6							13
		保健体育								10			10							20
		技術								6	1									7
		家庭								8	1		7							16
		英語								16	5		14							35
		工業											4							4
		情報											9							9
計	121		0	40	0	0	103	17	0	111	19	0	111	0	0	0	0	20	0	421

（出典 教務課資料：「平成 19 年度教育職員免許状一括申請件数一覧表」（学部））

資料学 4－1－6 学部生表彰件数一覧及び表彰一覧（抜粋）

学部生表彰件数一覧	
年 度	表彰件数
平成16年度	4
平成17年度	2
平成18年度	3
平成19年度	2
計	11

表 彰 一 覧（抜粋）	
年度	表 彰 事 由
16	第57回関西新制作展（絵画部門） 関西作家賞
	第55回四国インカレ陸上競技400m障害走 第1位入賞
	第59回徳島県展（洋画部門） 奨励賞
17	第21回全国教育系大学弓道選手権大会 準優勝
	第3回とくしま文学賞（文芸評論部門） 最優秀
	第41回関西国展（絵画） 新人賞
18	第59回関西新制作展 関西新作家賞
	第37回中国四国学生選手権水泳競技大会 男子 1500m自由形 第3位
	第2回マルチメディア学習教材活用国際コンテスト（日本国内の部） 優秀賞
19	第23回全国教育系大学弓道選手権大会 個人戦 準優勝
	第10回コンピュータ教育実践アイデア賞 実践事例アイデア集編集委員会 優秀賞
	第47回墨滴会全国書展 読売新聞社賞

【学部：11件，大学院：36件，団体：8件，計55件】

（出典 学生課資料：「学部生表彰件数及び表彰一覧（抜粋）」）

観点 学業の成果に関する学生の評価

（観点に係る状況）

平成20年3月に卒業者を対象として実施したアンケート結果においては、「本学で学んだことの成果について」に関する設問で、「具体的な成果として：一般的資質」では、「十分身に付いた」「どちらかといえば身に付いた」の肯定的意見が約64%であり（貼付資料学4－2－1），また、「具体的な成果として：教員資質」については、「十分身に付いた」「どちらかといえば身に付いた」の肯定的意見が約54%（貼付資料学4－2－2），さらに「総合的に判断して，社会に出て，本学の教育内容が役立つと思うか」については，「思う」「どちらかといえば思う」が約58%という状況にある（貼付資料学4－2－3）。

資料学 4－2－1 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（学部卒業者）
（平成20年3月実施）

Q7-2 具体的な成果として

	十分身に付いた		どちらかといえば身に付いた		どちらともいえない		どちらかといえば身に付いていない		身に付いていない		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
一般的資質											
1 幅広く豊かな教養	8	7.6%	55	52.4%	31	29.5%	9	8.6%	2	1.9%	105
2 強い責任感	23	21.9%	47	44.8%	30	28.6%	4	3.8%	1	1.0%	105
3 コミュニケーション能力・折衝能力	17	16.2%	61	58.1%	20	19.0%	5	4.8%	2	1.9%	105
4 他者に対する人間的愛情	25	23.8%	54	51.4%	22	21.0%	4	3.8%	0	0.0%	105
5 創造性	17	16.2%	29	27.6%	48	45.7%	9	8.6%	2	1.9%	105
6 精神的強さ	20	19.0%	54	51.4%	28	26.7%	2	1.9%	1	1.0%	105
7 協調性	21	20.0%	54	51.4%	27	25.7%	2	1.9%	1	1.0%	105
8 社会規範・マナー	17	16.2%	54	51.4%	33	31.4%	0	0.0%	1	1.0%	105
9 リーダーシップ・実行力	13	12.4%	41	39.0%	42	40.0%	9	8.6%	0	0.0%	105
10 情報活用能力	15	14.4%	43	41.3%	39	37.5%	6	5.8%	1	1.0%	104

（出典 教務課資料：「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（学部卒業者））

資料学 4－2－2 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（学部卒業者）
（平成 20 年 3 月実施）

教員資質	十分身に付いた		どちらかといえば身に付いた		どちらともいえない		どちらかといえば身に付いていない		身に付いていない		有効回答 件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
1 授業方法能力	14	13.3%	57	54.3%	25	23.8%	8	7.6%	1	1.0%	105
2 教材研究開発能力	16	15.2%	48	45.7%	32	30.5%	8	7.6%	1	1.0%	105
3 専門領域における知識	23	22.1%	47	45.2%	25	24.0%	7	6.7%	2	1.9%	104
4 学級経営能力	7	6.7%	29	27.6%	45	42.9%	17	16.2%	7	6.7%	105
5 生徒指導能力	8	7.6%	35	33.3%	43	41.0%	15	14.3%	4	3.8%	105

（出典 教務課資料：「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（学部卒業者））

資料学 4－2－3 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（学部卒業者）
（平成 20 年 3 月実施）

	思う		どちらかといえば思う		普通		どちらかといえば思わない		思わない		有効回答 件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q7-3 総合的に判断して、社会に出て、本学の教育内容が役立つ(活かせる)と思われますか。	19	18.3%	42	40.4%	36	34.6%	5	4.8%	2	1.9%	104

（出典 教務課資料：「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（学部卒業者））

（2）分析項目の水準及びその判断理由

（水準） 期待される水準を上回る。

（判断理由）

学生が身に付けた学力や資質・能力については、実地教育受講資格判定（取得率 95%）、単位修得（認定率 85%）、卒業及び学位取得（取得率 93%）、教育職員免許状一括申請件数（申請者 121 人で 421 件申請）等の状況から、教育の成果はあがっている。

学業の成果に関する学生の評価については、平成 20 年 3 月に卒業者を対象として実施したアンケート結果において、「本学で学んだことの成果について」に関する設問で、「具体的な成果として：一般的資質」では、「十分身に付いた」「どちらかといえば身に付いた」の肯定的意見が約 64%であり、また、「具体的な成果として：教員資質」については、「十分身に付いた」「どちらかといえば身に付いた」の肯定的意見が約 54%、さらに「総合的に判断して、社会に出て、本学の教育内容が役立つと思うか」については、「思う」「どちらかといえば思う」が約 58%という状況にあることから、学生の満足度は高い。

以上のことから、「期待される水準を上回る」と判断できる。

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 卒業後の進路の状況

(観点に係る状況)

学校教育学部卒業生の進路・進学については、教員への就職が大半を占めるが、進学、その他教員以外への就職もある。国立大学法人化後の平成16年度以降の教員就職率は、中期計画において目標とする60%を上回り、進学者を除く就職率も70%以上で、比較的高い状況にある(貼付資料学5-1-1)。

また、卒業後の都道府県別教員就職先は、平成16年度以降の4年間では、北海道・東北を除く全ての地域に及んでいる(貼付資料学5-1-2)。

資料学5-1-1 「学校教育学部卒業生の進路状況」

学校教育学部卒業生の進路状況

区 分	卒業生数	教 員 就 職 者						教員以外 の就職者	進学者	その他	教 員 就 職 率	
		小学校	中学校	高等学校	幼稚園	特別支援 学校(盲・ 聾・養護 学校)	小 計				進学者数を除く	
平成16年3月卒業	111	24(16)	9(7)	4(4)	7(5)	2(2)	46(34)	26	33	6	41.4%	59.0%
平成17年3月卒業	101	33(16)	12(7)	6(6)	6(4)	6(2)	63(35)	14	16	8	62.4%	74.1%
平成18年3月卒業	118	46(11)	11(8)	2(1)	10(2)	5(1)	74(23)	20	15	9	62.7%	71.8%
平成19年3月卒業	100	38(14)	15(10)	2(2)	4(1)	5(2)	64(29)	13	18	5	64.0%	78.0%
平成20年3月卒業	121	57(23)	15(11)	2(2)	5(1)	1(1)	80(38)	18	16	6	66.1%	76.2%

① () 内の数は、期限付教員を内数で示す。

注) この状況報告は、毎年度3月卒業生を対象としている。

(出典 学生課資料:「学校教育学部卒業生の進路状況」)

資料学5-1-2 「学校教育学部都道府県別教員就職状況」

学校教育学部都道府県別教員就職状況

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京都	神奈川県	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡県	愛知県	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	計
平成17年3月卒業													8							1	1	1	1	2	11	9				1	4			17	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2		63		
平成18年3月卒業											1	2	11			1					1	1		2	1	18	8		1			2	1	1	12	1	4	1			1	1	2	1		74		
平成19年3月卒業												1	7									1		1	1	16	8					2	2		13	3	2	1	1	1	1			2		64		
平成20年3月卒業											1	3				2				1	1	2			5	15	14		1	2		4	4		20	2	1			1				1		80		
合 計											2	3	29			3				2	2	5		4	9	60	39		2	2	1	12	7	1	62	7	7	3	2	1	4	2	2	2	5	1	281	

(出典 学生課資料:「学校教育学部都道府県別就職状況」)

観点 関係者からの評価

(観点に係る状況)

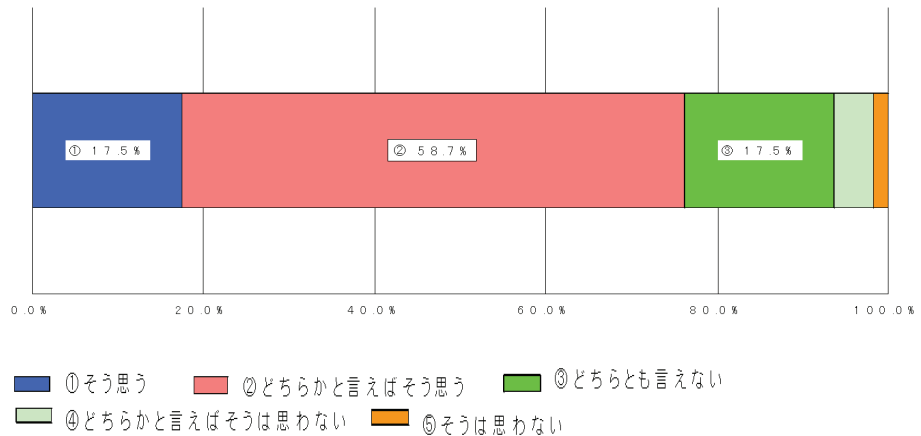
平成17年1月及び平成19年10月に実施した、徳島県下の教育委員会教育長や公立学校校長を対象としたアンケート調査の結果、本学学校教育学部卒業生に対しては、「総合的に評価して、教員として満足できる」との問に対し、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の肯定的意見が平成16年度は76.2%、平成19年度は81.2%となっている。また、

「全体的な印象」に係る設問事項 10 項目中 9 項目が肯定的評価を受けている（貼付資料学 5－2－1，2）。

平成 20 年 3 月に実施した，卒業生へのアンケート結果では，「総合的に判断して，社会に出て，本学の教育内容が役立つと思うか」との問に対し，「思う」「どちらかといえば思う」の肯定的意見が約 58%である（1－17 頁：資料学 4－2－3 参照）。

資料学 5－2－1 「鳴門教育大学におけるこれまでの教育研究に関するアンケート」（平成 17 年 1 月実施）

鳴門教育大学を卒業した教員を総合的に評価すると，満足できるかどうか，①～⑤のうち当てはまるものに○をつけて下さい。（N=63）



（出典 「鳴門教育大学におけるこれまでの教育研究の実施状況及び地域社会との連携状況等報告書」）

資料学 5－2－2 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（教育長・公立学校長）（平成 19 年 10 月実施）

Q3 鳴門教育大学の学部を卒業した教員の全体的な印象について，お教えてください。

	① 思う		② どちらかといえば思う		③ どちらともいえない		④ どちらかといえばそうは思わない		⑤ そうは思わない		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
1 教育者としての使命感や自覚がある。	84	28.2%	174	58.4%	38	12.8%	2	0.7%	0	0.0%	298
2 生徒（幼児・児童を含む。）に対する教育的愛情がある。	76	25.8%	177	60.0%	40	13.6%	2	0.7%	0	0.0%	295
3 広く豊かな教養がある。	34	11.4%	128	43.1%	124	41.8%	9	3.0%	2	0.7%	297
4 教科指導（授業）において実践的的力量がある。	48	16.1%	168	56.4%	76	25.5%	6	2.0%	0	0.0%	298
5 生徒指導において実践的的力量がある。	29	9.7%	129	43.3%	126	42.3%	13	4.4%	1	0.3%	298
6 学級経営において実践的的力量がある。	30	10.1%	141	47.3%	114	38.3%	12	4.0%	1	0.3%	298
7 保護者から教師として信頼されている。	52	17.5%	145	48.8%	92	31.0%	7	2.4%	1	0.3%	297
8 教職員組織の一員として，他の教職員との協調性がある。	62	20.9%	171	57.6%	61	20.5%	3	1.0%	0	0.0%	297
9 教職員組織において，指導力（リーダーシップ）がある。	14	4.7%	103	34.6%	167	56.0%	14	4.7%	0	0.0%	298
10 総合的に評価して，教員として満足できる。	57	19.2%	184	62.0%	49	16.5%	6	2.0%	1	0.3%	297

（出典 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（教育長・公立学校長））

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

卒業後の進路の状況については、平成 17 年度以降、「教員就職率を 60%とする」という中期計画の達成目標を上回り、60%以上を維持し、かつ上昇傾向にあること、また、関係者からの評価については、徳島県下の教育委員会教育長や公立学校長及び卒業生に対するアンケート調査の結果から、養成すべき教員の資質や能力について高い評価を得ていることから、教育大学としての目標を達成しており、教育面での成果があがっているといえる。

以上のことから、「期待される水準を上回る」と判断できる。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例 1 「ファカルティ・ディベロップメントの推進とその成果の実体化」(分析項目 I)

(質の向上があったと判断する取組)

本学では、学部における教育内容、教育方法の改善におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)推進の重要性を深く認識し、法人化と同時に学部教務委員会の下に「ファカルティ・ディベロップメント(FD)推進事業専門部会」を設置し、平成16年度以降、講演会やシンポジウムを開催するほか、「学部授業改善のためのFDワークショップ」、「学部の公開授業週間」、「特別公開授業」及び「授業研究会」等の事業を実施している。これらの事業結果は、毎年度「ファカルティ・ディベロップメント推進事業実施報告書」として刊行し、全学的な視点からFD改善のための提言(「短期的に実現可能な提言」及び「中長期的に実現可能な提言」)を行い、具体的な改善を行っている(貼付資料学6-1-1)。

当初の「FD推進事業」の参加対象者は、教員であったが、多様な見地から検討を行うため、平成18年度からは5名の学外者(教育委員会関係者)と学部学生を、平成19年度からは大学院生を加えて「授業改善のためのFDワークショップ」を開催した。

このような体制に基づき、教育内容・教育方法及び教育の質の向上への改善に資するための体制や、授業にフィールド型及び対話型(討論型)による手法を取り入れるなどし、充実を図った。なお、平成17年度から開設した教員養成コア・カリキュラム(教育実践コア科目等)は、FD推進事業の成果を反映したものである。

さらに、平成19年度からは、外部委員3名、学内委員3名で組織する「教育評価部会」を設け、その評価項目の一つとして、FD推進体制が実質的に機能しているかを検証・評価し、さらに改善すべき点については学長に提言することとしている。

こうした継続的な取り組みのもとに、教育内容・教育方法の改善及びカリキュラム開発を行い、高い教育水準を維持している(貼付資料学6-1-2)。

資料学6-1-1 本学におけるFD推進事業改善のための提言(抜粋)

○短期的に実現可能な提言

- ・平成18年度に実施したワークショップでは、本学教員、学生に加え、教育委員会関係者という、これまでにない枠組みで行った。学生と教員が、授業改善について話し合い、互いに、授業改善方法について智恵を出し合う場を設けたという意味では、貴重な空間を確保できたと考えられ、本ワークショップに類似した事業を継続的に実施できるとFDの効果が具体的になるのではなかろうか。その場合、前年度に実施した報告書を参照しつつ、得られた改善策に関するフィードバックができると効果的であろう。しかし、学内のワークショップのみでは、最新のFDに関する活動や理念を知ることができないため、適時、外部の専門講師の招聘による講演会やシンポジウムも必要と思われる。今回のワークショップでは、全体を5グループに分け、1グループ当たり約10名から15名構成で実施した。より効果的に議論することを考えると、やや人数が多く、1グループ当たり6名前後とすることが望ましいと思われる。

○中・長期的に実現可能な提言

- ・学校教員養成プログラム(長期履修制度)を利用している大学院生が増加していることに加え、本学大学院では学部授業の最大履修単位数を40単位としている。そのため近年、学部授業を履修している大学院生が急増している。従来、FD推進事業専門部会は、学部教務委員会の一専門部会という位置付けであった。このような現状を考慮し、大学院教務委員会と学部教務委員会の合同FD推進事業専門部会という組織に改組し、大学院生も受講することを考慮した学部授業改善を目標とするFD事業の推進を提案する。

(出典 「平成18年度ファカルティ・ディベロップメント推進事業実施報告書」)

資料学 6－1－2 平成 18 年度教員免許課程認定大学実地視察の報告書（抜粋）

（平成18年11月29日（水）） 鳴門教育大学 実地視察委員：平出委員、山崎委員

右欄の指摘等にかかる現在の状況		委員による指摘又は指導・助言等
全般的事項	平成17年度より、実践的指導力を育成するため、教育実践学(教科教育実践、教育実習)を中核とした教員養成コア・カリキュラムを開発し、実施している。	- 教員免許課程が充実しており、積極的な取組を評価する。教員養成のトップモデルとして今後も期待する。 - 今後は、コア・カリキュラムに携わる大学教員の資質の確保や、コア・カリキュラムと教育実習等の実践や大学全体としての到達目標との具体的関連を明確にしつつ、カリキュラムの一層の充実に期待する。
個別的事項	- 大学は、こどもとのふれあいや教育実践を重視した教育活動に比重を置き、教育課題を解決する能力を伸ばすための教育課程が重要であると認識している。 - 教育課程の編成を工夫し、大学教員の資質を確保するために、全学的組織である「学校教育学部教務委員会」の下に、「学生による授業評価専門部会」、「FD推進事業専門部会」、「実地教育専門部会」を組織している。	教員養成に対する理念・構想が明確であり、それを具体化するための全学的組織が十分整備されている。特に、「FD推進事業専門部会」の取組みが充実しており、評価する。

（出典 平成 18 年度教員免許課程認定大学実地視察の報告書）

②事例 2 「コア・カリキュラムの実施による教育実践力の向上」（分析項目Ⅱ・Ⅲ）

（質の向上があったと判断する取組）

学校教育学部では、教育内容及び教育方法を充実させるため、教育実践学を中核とするコア・カリキュラムを開発し、平成 17 年度から実施している。本カリキュラムは、教科内容学(教科専門)・教科教育学(教科教育専門)・教育科学(教職専門)の理論知と教育実践の実践知を統合した「教育実践学」をコア領域とし、教養基礎科目、教育実践コア科目、教職共通科目、専修専門科目、卒業研究によって構成している（1－6 頁：貼付資料学 2－1－1 参照）。特にカリキュラムの中核となる教育実践コア科目「初等中等教科教育実践」を 1 年次から 3 年次まで系統的に展開し、さらに教職共通科目として、ふれあい実習・実地教育を体系的に 1 年次から 4 年間にわたって実施している。この教育実践コア科目では、教科内容学と教科教育学を専門とする教員、附属学校教員及び連携協力校の現職教員が協働で授業を行うことにより教育実践力の育成を目指している。

これらの授業については、毎年学生による授業評価を実施し、その講義及び演習の内容の見直しを行っており、全コースの学生による授業評価の結果は、平成 17 年度・18 年度を通した平均値が 5 段階評価で 4.2 であり、非常に高い評価を得ている。

本学の教員養成コア・カリキュラムは、現在、学年進行中であり、教育実践力の向上についての成果は測りにくい状況にあるが、学生の早期からの教職への意識高揚や、学校現場に対する理解を深めるという効果は、学生に対する授業評価結果等に表れている。また、教員養成の関係機関や認証評価結果においても高い評価を得ている。これらの教育実践力向上への取組は、平成 18 年度文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色 G P）」において「教育実践の省察力を持つ教員養成-教育実践力自己開発・評価システムを組み込んだ教員養成コア・カリキュラムの展開を通して-」が採択された。

③事例 3 「学生への指導体制の充実・改善による教員就職率の向上」(分析項目Ⅳ)

(質の向上があったと判断する取組)

前掲事例 1 及び 2 などの教育内容・教育方法の改善に関する取り組みに加えて、学生への指導体制として、法人化前からクラス担任制の採用、専修毎に各教員が協力して学生の学修や進路等に関する指導、合宿研修における教員就職研修、ボランティア活動の推進、フレンドシップ事業、課外活動指導等を行ってきた。

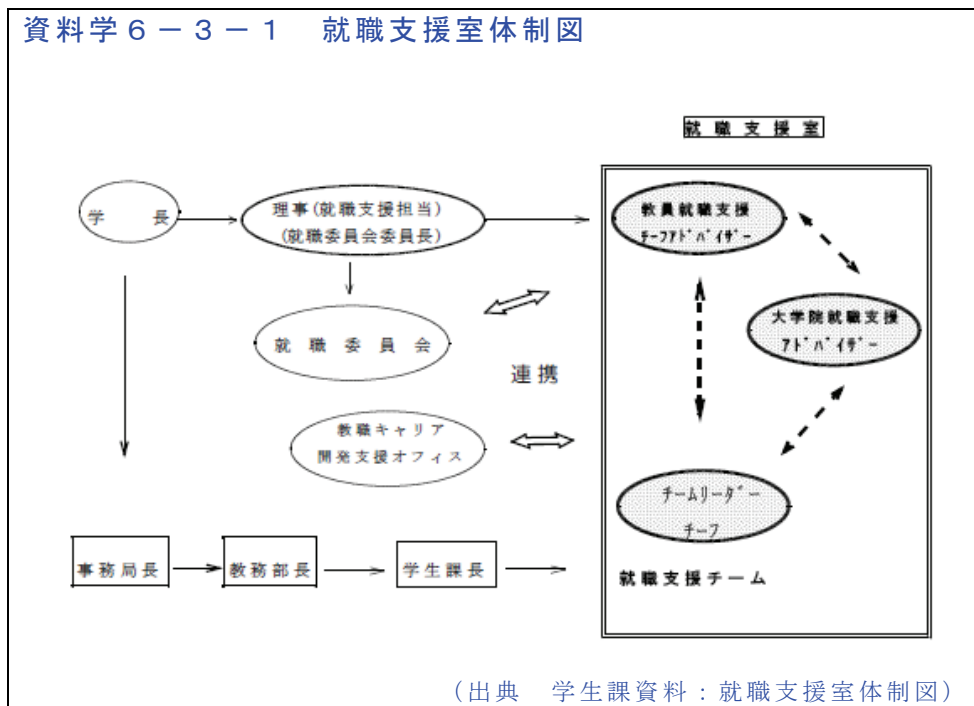
さらに、法人化後は、従来からの指導体制をより充実させるとともに、新たに就職支援室へ教員就職支援チーフアドバイザー(専任教員)を配置し、指導教員との連携指導体制を構築し、学生への日常的で恒常的な学生支援体制を充実させた(貼付資料学 6-3-1)。

このような学生指導体制の充実・改善の成果は、「関係者による評価」や実際の「教員採用数の増加」として現れている。徳島県下の教育委員会教育長や公立学校長を対象とした本学卒業生に関するアンケート調査の「総合的に評価して、教員として満足できる」の項目では、平成 17 年度は 76.2%が肯定的な回答をしているのに対して、平成 19 年度は 81.4%に上昇している。法人化後の教員就職状況は、平成 16 年度は 63 名 62.4%，平成 17 年度は 74 名 62.7%，18 年度 64 名 64.0%，19 年度 80 名 66.1%である(1-18 頁：貼付資料学 5-1-1)。

また、それに伴い、全国の教員養成系大学の教員就職状況の順位も、16 年度 44 位、17 年度 10 位、18 年度 9 位となっている。

このように、関係者からの高い評価や教員就職率が向上している状況から、これらは優れた取組といえる。

資料学 6-3-1 就職支援室体制図



(出典 学生課資料：就職支援室体制図)

2. 学校教育研究科

I	学校教育研究科の教育目的と特徴	2-2
II	分析項目ごとの水準の判断	2-3
	分析項目Ⅰ 教育の実施体制	2-3
	分析項目Ⅱ 教育内容	2-6
	分析項目Ⅲ 教育方法	2-9
	分析項目Ⅳ 学業の成果	2-12
	分析項目Ⅴ 進路・就職の状況	2-15
III	質の向上度の判断	2-18

I 学校教育研究科の教育目的と特徴

1 学校教育研究科の目的

学校教育研究科の目的は、学則第 57 条において「本学大学院は、広い視野に立って精深な学識を授け、学校教育に関する理論と応用及び教育実践の場における高度の教育研究能力を養うとともに、教育にたずさわる者の使命と熱意に応え、その研究研鑽を推進することを目的とする。」と定めている。

また、中期目標では「教育に関する専門職として必要な資質や能力の向上を図り、学校教育の創造に主体的に取り組むことのできる高度な実践的力量を涵養する」と定めている。

2 学校教育研究科の特徴

(1) 教育の実施体制

- ①教育実践学を中核とする教員養成コア・カリキュラムの構築及び学部・大学院の 6 年間を見通した教員養成の実施
- ②教員の質の向上を図るための評価
- ③教育内容の質の向上を図る教材開発、学習指導法の改善に向けた取組

(2) 教育内容

- ①長期履修学生制度を活用した学校教員養成プログラムの導入
- ②教育内容の充実を図るため、社会のニーズに即した教育課程、教育方法、成績評価等の志向・実施

(3) 教育方法

- ①14 条特例による昼夜開講制の実施
- ②少人数制による講義及び指導
- ③授業内容に応じ適宜、有効かつ多様な授業形態（講義、演習等）による実施

3 入学者の状況

学校教育研究科の入学定員は 300 人であり、過去 4 年間における定員充足率は、平均 85%である。

4 想定する関係者とその期待

本学では、初等中等教育における教育専門職をめざす学部生・院生、卒業生・修了生、教育委員会等教育行政関係者及び国内外の学校現場の教員並びに学校で学ぶ児童・生徒とその保護者及び地域社会を関係者として想定している。

これらの関係者が本学に対して期待することは、人間性豊かで、高度な実践的指導力と学校現場における課題解決能力を持った優れた教員を養成することである。

II 分析項目ごとの水準の判断

分析項目 I 教育の実施体制

(1) 観点ごとの分析

観点 基本的組織の編成

(観点に係る状況)

学校教育研究科は3専攻を置き、その下に特定の分野についての専門性を高めるため、12コースを置いている(貼付資料院1-1-1)。

また、研究科における入学定員は300人である。過去4年間の定員充足率は平均84.5%であり、入学定員を下回っている。

教員組織の構成は、「鳴門教育大学部組織運営規則」に基づき、第1部から第5部に分けて編成し、さらにそれぞれの部を構成する組織として17の講座を設けている(貼付資料院1-1-2)。

学校教育研究科を担当する教員数は、大学院設置基準に示された研究指導教員数(51人)、研究指導補助教員数(40人)に、対し、それぞれ76人、75人を擁し(貼付資料院1-1-3)、基準を十分に満たすとともに、課程認定上の教員を適切に配置している。

資料院1-1-1 「教育・研究組織図」

大学院学校教育研究科	学校教育専攻	人間形成コース
		学校改善コース
		授業開発コース
		生徒指導コース
		臨床心理士養成コース
		幼年発達支援コース
	特別支援教育専攻	総合学習開発コース
	教科・領域教育専攻	言語系コース
		社会系コース
		自然系コース
		芸術系コース
		生活・健康系コース

(出典 ウェブページ [大学概要 教育研究組織図 (大学院)])

URL http://www.naruto-u.ac.jp/01_soumu/0102_kikaku/sosiki-in.htm

資料院1-1-2 「教育研究組織・施設」

Naruto University of Education 国立大学法人 鳴門教育大学

学部・大学院

TOP > 学部・大学院

■教育研究組織・施設

講座は、教育研究上の組織として、本学の創設の趣旨・目的に沿い、学校教育における理論的・実践的な教育研究の充実に図り、各関係専門分野の協力体制を確保し、弾力的な運営を図るため大講座別とし、次の17講座を置いています。また、学内共同教育研究施設等として、6つのセンターを置いています。

■講座

- 人間形成講座
- 学校改善講座
- 授業開発講座
- 教育臨床講座
- 幼年発達支援講座
- 特別支援教育講座
- 総合学習開発講座
- 言語系(国語)教育講座
- 言語系(英語)教育講座
- 社会系教育講座
- 自然系(数学)教育講座
- 自然系(理科)教育講座
- 芸術系(音楽)教育講座
- 芸術系(美術)教育講座
- 生活健康系(保健体育)教育講座
- 生活健康系(技術)教育講座
- 生活健康系(家庭)教育講座

■センター

- 地域連携センター
- 実技教育研究指導センター
- 高度情報研究教育センター
- 心身健康研究教育センター
- 小学校英語教育センター
- 教員教育国際協力センター

■大学院:コースの概要

■学部:コースの概要

■入試情報

■各講座のウェブページ

■連合大学院のウェブページ

〒772-8502
徳島県鳴門市鳴門町
高島字中島748番地
国立大学法人鳴門教育大学

(出典 ウェブページ [学部・大学院]) URL <http://www.naruto-u.ac.jp/menu/department.html>

資料院 1－1－3 「専攻等ごとの研究指導教員数及び研究指導補助教員数」

専攻等ごとの研究指導教員数及び研究指導補助教員数

平成19年7月1日現在

研究科	専攻・課程	現員			設置基準で必要な研究指導教員及び研究指導補助教員			備考
		指導教員数		研究指導補助教員数	指導教員数		研究指導補助教員数	
		小計	教授数 (内数)		小計	教授数 (内数)		
学校教育研究科	学校教育専攻	18	18	21	6	0	4	
	障害児教育専攻	3	3	4	3	0	2	
	教科・領域教育専攻	48	48	42	42	0	34	
	センター所属教員	7	7	8				

※学生収容定員に応じた研究指導教員数は30人

※各センター所属教員は学校教育研究科の業務に携わる。

(出典 総務課資料：専攻等ごとの研究指導教員数及び研究指導補助教員数)

観点 教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制

(観点に係る状況)

教育内容については、大学院教務委員会が中心となり、質の向上を図るべく継続的に取り組んでいる。

さらに、教育方法の質の向上改善に向けて、「ファカルティ・ディベロップメント推進事業専門部会」と連携し、平成19年度よりFD推進事業の一つであるFDワークショップを実施している。

また、「院生による授業評価専門部会」では、院生による授業評価を毎学期実施し、アンケート結果を各教員にフィードバックするとともに、その分析・評価と授業改善の具体策を「大学院生による授業評価実施報告書」にまとめ、公表している(貼付資料院1－2－1)。

このように個々の教員は、FD、授業評価及びこれらの提言に基づいて授業の改善に努めている。さらに、FDの一環として、より学校教育に密接した教育実践に資するため、学部・大学院の授業実践研究を実施した成果を研究論考集「鳴門教育大学授業実践研究」にまとめている。こうした研究の成果が、授業科目「教育実践研究」の開設に至った。

さらに、平成19年度からは、これらのシステムが教育の質の向上や改善に結びつけるシステムとして機能しているかを評価するため、評価委員会の下に、学外委員を含めた「教育評価部会」を設置するとともに、評価を実施し、その評価結果をウェブページに公開している(1－4頁：貼付資料学1－21参照)。

資料院 1-2-1 「大学院生による授業評価実施報告書」(抜粋)

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

評価実施日	平成19年2月16日
授業科目名	歌唱表現演習
学期・曜日・時間	後期 金曜日 2時限
授業区分	1. 教職基礎科目 [2. 専門科目]
担当教員名	草下 實
回答者数	4名

- 1 アンケート [1] の集計と分析について
 [5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない]
 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評価項目	評価番号	5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	3	1					
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	3	1					
3	授業の内容には一貫性があった。	4						
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	3	1					
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	3	1					
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	3	1					
7	授業の進む速さは適切であった。	4						
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	4						
9	受講生に授業への参加(質問、発言、討議など)をよく促した。	4						
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	3	1					
11	視聴覚機器は使用は適切であった。	—	—	—	—	—	—	—
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	3	1					
13	受講生に分かりやすく説明した。	4						
14	教員の声は聞き取りやすかった。	4						
15	板書の文字は見やすかった。	4						
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	3	1					

<分 析>

各設問に係る評価は概ね良い結果が得られている。従って、授業の内容・方法については特に問題はないものと考えられる。しかし、設問5における成績の評価の方法、テキスト・参考書・配布資料の選択及び内容の精査・使用のあり方について、さらに工夫したい。

- 2 アンケート [2] の分析について
 質問：あなたはこの授業に対して、どのような問題意識や期待をもって受講しようと思いましたが、具体的にお書きください。

<分 析>

授業に対する履修学生の問題意識や期待については、授業シラバスに記載した授業の目標、趣旨、内容を比較的にしっかりと理解して受講していることがわかる。全履修者が一応に歌唱に関わる表現の方法や表現構成要素となる言葉や旋律、発声のあり方についての知識や技法の理解に期待感をもって受講していることがわかる。(以下、受講生の意見を抜粋)

- 声楽は自分の専門ではないが、音楽で大切な表現するということを知りたかった。
- 歌曲の歌詞と旋律や和音との関連、音楽の持つ内容をいかに表現するか
- 自分の声の可能性を引き出してもらいたいと思った。また、表現の具体的な方法を知りたかった。
- 音楽に触れて表現したいとおもっても、その裏付けや表現方法がわからなければ表現できません。そのことを学びたかった。

- 3 アンケート [3] の分析について
 質問：「教師の実践力の育成に役立つ内容であった」について、その評価の番号を選択された理由を具体的にお書きください。

<分 析>

(以下、受講生の意見を抜粋)
 ○ 心に描いたこと、感じたことをありのままに表現する。このことを伝えられたい、心豊かに育つことができるのではないかと思います。
 ○ 単に音程を正しく歌詞をつけて歌うというだけでは音楽を表現できない。また、教師自身がそのような歌を範唱しては子ども達の音楽への関心を減じてしまいかねない。
 ○ 自分や友達の声が先生の指導によって変わっていくのが分かった。歌う側の体や声や心について知るとともに、どう指導が人を育てていくのがわかった。
 ○ 発声の仕方から丁寧に教えていただいた。音楽という枠から離れ、文学的なところまで説明していただき視野が広がった気がする。個人指導があり、個々のレベルに合わせた丁寧な内容であった。
 上掲した受講生の意見にあるように、本授業は歌唱表現を学ぶに当たって、山田耕作的な言語を扱い、単に表現技能の習得を目的とするのではなく、子どもだけではなく大人のうちにある「童心」という心の問題とその思想観を思考することで、音楽科教育実践の中心をなす歌唱指導のあり方を導くという授業の意図は達成されている。

(出典 「平成 18 年度 大学院生による授業評価実施報告書」)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回っている。

(判断理由)

基本的組織の編成については、学校教育研究科の教育組織及び教員組織は、研究科の教育目的に即した構成となっており、教員配置についても、大学院設置基準を大きく上回っている。学生数については、入学定員をやや下回っている。

教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制については、大学院教務委員会の下に「大学院生による授業評価専門部会」を設け授業評価を実施し、その結果を「大学院生による授業評価実施報告書」として公表するとともに、FD 推進事業専門部会での検討に基づき FD ワークショップを実施するなど、教育内容、教育方法の改善に努めている。さらに、教育内容、方法等の改善に資するための体制が機能しているかを評価するための組織として、教育評価部会を設置した。

また、より学校教育に密接した教育実践に資するため、学部・大学院の授業実践研究の成果を研究論考集「鳴門教育大学授業実践研究」にまとめている。こうした教育・研究の成果を基に、平成 17 年度に高度な実践的力量を育成することをねらいとして、「教育実践研究」を核とする教育課程に再編した。

以上のことから、「期待される水準を上回っている」と判断できる。

分析項目Ⅱ 教育内容

(1) 観点ごとの分析

観点 教育課程の編成

(観点到係る状況)

学校教育研究科においては、教育に関する専門職として必要な資質や能力の向上を図り、学校教育の創造に主体的に取り組むことのできる高度な実践的力量を涵養することを目的として、教職基礎科目、専門科目、教育実践研究及び課題研究が実践的力量の育成に貢献できるように教育課程を適切かつ体系的に編成している(貼付資料院2-1-1)。

授業科目及びその内容については、バランスよく配分している(貼付資料院2-1-1, 2)。

なお、研究科の授業科目については、「講義」、「演習」等の明確な区分は設けず、授業の内容に応じて適宜、有効且つ多様な授業形態をとっている。

また、必修科目と選択科目の配当についても、適切に配当している(貼付資料院2-1-3)。

さらに、各々の授業の目的・主旨・計画・評価基準等の内容は、シラバスに明記し院生に周知している。

資料院2-1-1 「授業科目の区分と内容」

1 授業科目の区分と内容

大学院学校教育研究科(修士課程)の授業科目の区分とその内容は、次の表のとおりです。

区 分		内 容
教職基礎科目	教育課題探究A	教員として幅広く、高度な専門性を身に付けるための基盤として、「学校教育」「特別支援教育」関係における現代的教育課題を把握するための概論的な科目を各分野にわたって開設する。
	教育課題探究B	教員として幅広く、高度な専門性を身に付けるための基盤として、「教科・領域教育」関係における現代的教育課題を把握するための概論的な科目を各分野にわたって開設する。
専門科目	学校教育関係	各専攻・コースの専門分野について、高度の専門性を身に付けるとともに理論的・実践的な研究能力を高めることを目的として開設する。
	特別支援教育関係	
	教科・領域教育関係	
科目	教科専門	
	教科教育	
教育実践研究		教員としての高度な教育実践能力を養成することを目的とし、分野ごとに開設する。
課題研究		学生の興味・関心がある研究課題を考慮して開設し、修士論文に発展させる。

(出典 「平成19年度大学院履修の手引」)

資料院2-1-2 「授業科目の区分別の単位」

2 授業科目の区分別の単位

修士課程の修了の要件を満たすために修得を必要とする授業科目の区分別の単位は、次表のとおりです。

区分	授 業 科 目	学校教育専攻	特別支援教育専攻	教科・領域教育専攻	
				日本語教育分野を除く	日本語教育分野
教職基礎科目	教育課題探究A	2単位	2単位	2単位	2単位
	教育課題探究B	2単位	2単位	2単位	2単位
専門科目	学校教育関係	8単位	—	—	—
	特別支援教育関係	—	8単位	—	—
	教科・領域教育関係	—	—	4単位	14単位
科目	教科専門	—	—	2単位	4単位
	教科教育	—	—	2単位	4単位
教育実践研究		2単位	2単位	2単位	2単位
課題研究(I・II)		6単位	6単位	6単位	6単位
小 計		20単位	20単位	22単位	30単位
自由選択科目		10単位	10単位	8単位	—
合 計		30単位	30単位	30単位	30単位

備考 自由選択科目は、各専攻の専門科目の授業科目のうちから選択すること。

(出典 「平成19年度大学院履修の手引」)

資料院 2-1-3 「開設授業科目，単位数，履修方法等」（教育課題研究等抜粋）

3 開設授業科目，単位数，履修方法等

各専攻・コース別の課程修了の要件を満たすために修得を必要とする授業科目の区分別の単位数、履修方法等は、次表のとおりです。

鳴門教育大学学校教育研究科履修規程
別表第4（第5条関係）抜刷

1 教職基礎科目

(1) 教育課題探究A

所 属 す る 専 攻 ・ コ ー ス		授 業 科 目	単 位 数		履 修 方 法
			必修	選択	
学 校 教 育 専 攻	人間形成コース	教育課題探究（人間形成基礎研究）	2	1 学校教育専攻及び特別支援教育専攻の学生は、自己の所属する専攻・コースの授業科目1科目2単位を履修すること。 2 教科・領域教育専攻の学生は、いずれかの授業科目1科目2単位を履修すること。	
	学校改善コース	教育課題探究（学校改善の課題）	2		
	授業開発コース	教育課題探究（授業開発研究）	2		
	生徒指導コース	教育課題探究（生徒指導基礎研究）	2		
	臨床心理士養成コース	教育課題探究（臨床心理学基礎研究）	2		
	幼年発達支援コース	教育課題探究（幼年発達支援論）	2		
	総合学習開発コース	教育課題探究（現代社会と総合学習）	2		
	特別支援教育専攻	教育課題探究（特別支援教育）	2		

(2) 教育課題探究B

所 属 す る 専 攻 ・ コー ス		授 業 科 目	単 位 数 必修 選択	履 修 方 法
教 科 ・ 領 域 専 攻	言語系 コース	国語 教育課題探究 (国語学・国文学への道)	2	1 学校教育専攻及び特別支援教育専攻の学生は、いずれかの授業科目1科目2単位を履修すること。 2 教科・領域教育専攻の学生は、自己の所属する専攻・コースの授業科目1科目2単位を履修すること。
		国語 教育課題探究 (国語科教育学への道)	2	
		英語 教育課題探究 (日本語教育学への道)	2	
	社会系 コース	英語科/英語教育基礎論	2	
		数学 教育課題探究 (社会科教育の基礎論)	2	
		数学 教育課題探究 (数学教育の課題と探究)	2	
	芸術系 コース	理科 教育課題探究 (理科)	2	
		音楽 教育課題探究 (音楽表現とコミュニケーション)	2	
		美術 教育課題探究 (造形教育の基礎論)	2	
	生活・ 健康系 コース	保健体育 教育課題探究 (運動学習と健康教育)	2	
技術・工業・情報 教育課題探究 (教育と科学技術)		2		
家庭 教育課題探究 (家庭科―自立と共生の生活)		2		

(1) 学校教育関係

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123	124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183	184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	52
--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

所 属 す る		授 業 科 目	単 位 数		履 修 方 法
			必修	選択	
学	人間形成コース	人間形成文化史研究	2	2	1 学校教育専攻の学生は、 2 自己の所属するコースの授業科目を中心に8単位以上を選択履修すること。 2 特別支援教育専攻及び教科・領域教育専攻の学生は、自由選択科目として履修することができます。
		近代教育文化史演習	2	2	
		教育哲学研究	2	2	
		教育哲学演習	2	2	
		教育認知心理学研究	2	2	
		教育認知心理学演習	2	2	
		発達健康心理学研究	2	2	
		発達健康心理学演習	2	2	
校	学校改善コース	比較教育社会学研究	2	2	
		比較教育社会学演習	2	2	
		学級経営改善研究	2	2	
		学級学校経営演習Ⅰ	2	2	
		教育組織開発研究	2	2	
		学級学校経営演習Ⅱ	2	2	
		地域教育システム研究	2	2	
		教育システム分析演習Ⅰ	2	2	
教	学校改善コース	教育政策制度研究	2	2	
		教育システム分析演習Ⅱ	2	2	
		教職研究	2	2	
		教師職能開発演習	2	2	
		教育リーダーシップ研究	2	2	
		学校危機管理研究	2	2	
		学校経営実践演習	2	2	
		学校教育リサーチ-演習Ⅰ（対人関係演習）	2	2	
育	学校改善コース	学校教育リサーチ-演習Ⅱ（学校組織開発演習）	2	2	4 } 学校管理職養成分野に所属する学生に限る。
		学校教育リサーチ-演習Ⅲ（連携構築演習）	2	2	
		学校教育リサーチ-演習Ⅳ（人材育成演習）	2	2	
		学校教育リサーチ-演習Ⅴ（教育課程経営演習）	2	2	
		学校教育リサーチ-演習Ⅵ（教育政策分析演習）	2	2	
		教育課程研究	2	2	
		教育内容開発演習	2	2	
		教育評価法開発研究	2	2	
専	授業開発コース	教育評価法開発演習	2	2	
		授業開発研究	2	2	
		授業分析演習	2	2	
		認知学習科学研究	2	2	
		認知学習科学演習	2	2	
		教育工学研究	2	2	
		授業システム開発演習	2	2	
		教育実践研究方法論	2	2	
攻	授業開発コース	思考支援の認知心理学研究	2	2	
		思考支援の認知心理学演習	2	2	

(出典 「平成 19 年度大学院履修の手引」)

観点 学生や社会からの要請への対応

(観点に係る状況)

学校教育研究科においては、院生の多様なニーズに対応した教育を実現するために、平成17年度から、教育職員免許状取得を希望する院生のニーズに応えるために、3年間の在学期間で、修士の学位取得及び幼稚園・小学校・中学校のいずれかの教育職員免許状の取得を可能にする「長期履修学生制度」を活用した「学校教員養成プログラム」を開発・導入した。この制度による志願者及び入学者は[貼付資料院2-2-1](#)のとおりである。

また、所属する専攻・コースの科目履修に加えて、専攻・コースを越えた科目履修（**貼付資料院2-1-3参照**）、学部授業の履修を認めており、**貼付資料院2-2-2**のとおり、約24%の院生が学部の授業を履修している。

一方、社会からの要請に対応した教育を実現するために、大学院設置基準第 14 条に基づく昼夜開講制を制度化しており、履修状況

資料院 2-2-1 長期履修学生入学状況

長期履修学生入学状況

	志願者数	入学者数
平成17年度	5 3 人	4 3 人
平成18年度	9 9 人	7 3 人
平成19年度	9 8 人	5 5 人

(出典 教務課資料：「長期履修学生入学状況」)

資料院 2-2-2 「大学院生の学部授業履修状況」

【学部授業履修状況】

	M1	M2	長期履修学生	計
平成16年度	71	69		140人
平成17年度	75	59	43	177人
平成18年度	62	63	115	240人
平成19年度	57	47	162	266人

(出典 教務課資料：「大学院生の学部授業履修状況」)

は貼付資料院 2-2-3 に示すとおりである。

また、聴講生・研究生・科目等履修生の受入制度を設けている（1-9 頁：貼付資料学 2-2-3 参照）。

教育上有益と認める場合は、10 単位を超えない範囲で単位互換による認定（留学を含む）、入学前の既修得単位の認定制度を設け、修了要件として認定することができる。

外国人留学生に対しては、「日本事情・日本文化」、「日本語Ⅰ」等の授業を開講している。

資料院 2-2-3 「夜間授業履修状況」

【夜間授業履修者数】

	M1	M2	計
H16	4	6	10人
H17	9	6	15人
H18	7	11	18人
H19	6	7	13人

（出典 教務課資料：「夜間授業履修状況」）

（2）分析項目の水準及びその判断理由

（水準） 期待される水準を上回る。

（判断理由）

教育課程の編成については、教職基礎科目、専門科目、教育実践研究及び課題研究が実践的力の育成に貢献できるように適切に配置されており、学校教育の創造に主体的に取り組むことのできる高度な実践的力を養成するように教育課程を体系的に編成している。

一方、学生や社会からの要請への対応としては、昼夜開講、聴講生・研究生・科目等履修生の受入等を制度化するほか、長期履修学生制度を活用した「学校教員養成プログラム」を開発し、過去3年間で171人（平成17年度43人、平成18年度73人、平成19年度55人）が利用している。

また、専攻・コースを越えた科目履修や学部授業を40単位まで履修可能にするなどの整備をしており、約24%の院生が学部の授業を履修している。

これらの取組から、教育目的を達成するための教育課程の編成を行い、社会のニーズを踏まえた長期履修学生制度等が活用されている。

以上のことから、「期待される水準を上回っている」と判断できる。

分析項目Ⅲ 教育方法

(1) 観点ごとの分析

観点 授業形態の組合せと学習指導法の工夫

(観点に係る状況)

学校教育研究科は、教育の専門職としての力量を総合的に養うため、授業科目については、「講義」、「演習」、等の明確な区分は設けておらず、授業の内容に応じて適宜、有効かつ多様な授業形態を採用している。授業の多くが受講生 10 人以下で編成されるため、少人数、かつ対話・討論形式授業が可能である。

学習指導法は授業内容（2－6 頁：貼付資料院 2－1－1 参照）に応じて、次のような工夫を行っている。

「専門科目」では、少人数教育の特性を活かすとともに、フィールドワーク、模擬授業、情報システムの利用、地域連携型授業（貼付資料院 3－1－1）など各科目の目的に合致した学習方法を採用している。

また、「教育実践研究」では、院生が教育現場に赴き、現場の教員と協働で課題解決にあたる実践的指導を行っている。

さらに「教育課題探究」では、課題領域別にグループを編成し、少人数での講義と討論による授業を展開するなど、各々の内容に応じた工夫をしている。

「課題研究」に当たっては、指導教員が、院生の個別指導に係わる広範な責任をもって指導を行い、修士論文については構想発表会・中間発表会等を開催し、その際に指導教員以外の教員からも指導・助言を受けることができる。

また、学位論文の精度を確かなものとするため、院生の了解のもとに、研究成果を学術誌や学会で発表するように指導している。

その他、院生を TA として毎年度約 40 人採用し、研究で培った知識・技能を実践する機会を与えることで、自己の研究を整理し、具体化するとともに、教育的資質を育成することに役立てている。

なお、各授業科目について、シラバス作成要領に基づいて授業の目標・計画並びに評価基準等が作成されている。シラバスは紙媒体とウェブページにより公開し、院生は授業科目の選択及び学習準備、教員はガイダンス及び各授業の成績評価の際に活用している。

資料院 3－1－1 「平成 19 年度大学院授業概要」
(四国遍路と地域文化)

【教科専門・社会系】

33158000 四国遍路と地域文化 (Shikoku Pilgrimage as Local Culture)	
担当教員・所属	○大石雅章・A206 (人間形成) 堀川直凡・A714 / 堀井一孝・A609 (教育臨床) 山下一夫・A709 / 中津郷子・A613 (社会系) 山本準・A301 / 立岡裕士・A206 町田哲・A203 (生活・健康系(保健体育)) 安藤幸・E205 / 木原資裕・E208 / 南庵尚・E306
標準履修年次	大学院 1・2 年
単位区分	選択必修
備考	開講時期 集中講義 授業形態 講義・演習 単位数 2
キーワード	歩き遍路 地域文化 人々との交流
連絡先・オフィスアワー	

【授業の目的及び主旨・到達目標】

歩き遍路の体験、現地における遍路文化を支えている人々との交流を通じて、教員としての資質を高め、人間教育を目指すものである。目的の第一は、四国遍路を培ってきた、地域住民の諸活動（ボランティア活動など）、自治体のサポート体制、遍路寺院の活動など、現地における人々から地域文化を担うことの意義とその取り組み方を学ぶ。第二に、遍路を歩く中で自然とひととのふれあひから自己を見つめ直す機会を与える。

【授業計画】

遍路道を実際に歩くことによって、四国遍路が多くの人の心を捉えてきたのかは何かを実体験する。また、四国遍路を支えてきた地域社会と交流することによって、地域社会が四国遍路を如何に支えてきたのかを学ぶ。四国遍路を通して地域文化と地域社会の関係を立体的に理解し、教育に生かせるような力を養成する。前もってオリエンテーションと歩行のための準備を行う。
歩き遍路については、2泊3日の日程で実施する。コースは第1番札所霊山寺から第12番札所徳山寺までのコースを予定している。

【履修上の注意事項】

積極的な参加態度が必要である。宿泊代及び飲食代などは受講生負担となります。

【成績評価方法】

参加態度やレポートをもとに総合的に評価をする。

【テキスト・参考文献】

教科書は指定しない。必要に応じて資料を配布する。

(出典 「平成 19 年度大学院授業概要」)

観点 主体的な学習を促す取組

(観点に係る状況)

院生の主体的な学習を支援するために、次のような体制と環境を整備している。

各授業担当教員はオフィスアワーを設定、その旨をシラバス等で周知し、授業に関する質問・相談を

受けており、また、指導教員によるきめ細やかな指導を行っている。

また、専攻・コースごとに院生室を配置するとともに、高度情報研究教育センターをはじめ、各棟に端末室(24時間利用可)を、芸術棟には40室を超えるピアノ練習室(20時まで利用可)を、図書館(22時まで利用可)には研究個室やセミナー室をそれぞれ設置するなど便宜を図っている(貼付資料院3-2-1)。さらに水曜の午後は、自主学習時間を確保するために、可能な限り授業を開講しないこととしている。

その他、希望する院生には、実技教育指導センターにおいて、能力に応じた補充的指導を実施している。

一方、単位の実質化を実現するために、全学において、前述の学習・研究指導体制及び学習環境の整備に加えて、授業目的及び成績評価基準をシラバスに明示している。

シラバスに授業の目的及び主旨・到達目標、授業計画(学習内容)、履修上の注意事項、成績評価方法、テキスト・参考文献を明記することで、履修選択の便宜及び予習・復習の促進を図っている。

なお、院生は、評定と点数の相対的位置をウェブページで確認し、学びの成果を自己点検できるようになっている(貼付資料院3-2-2)。

資料院3-2-1 「図書館館内利用統計」(附属図書館資料)

図書館内個室利用統計

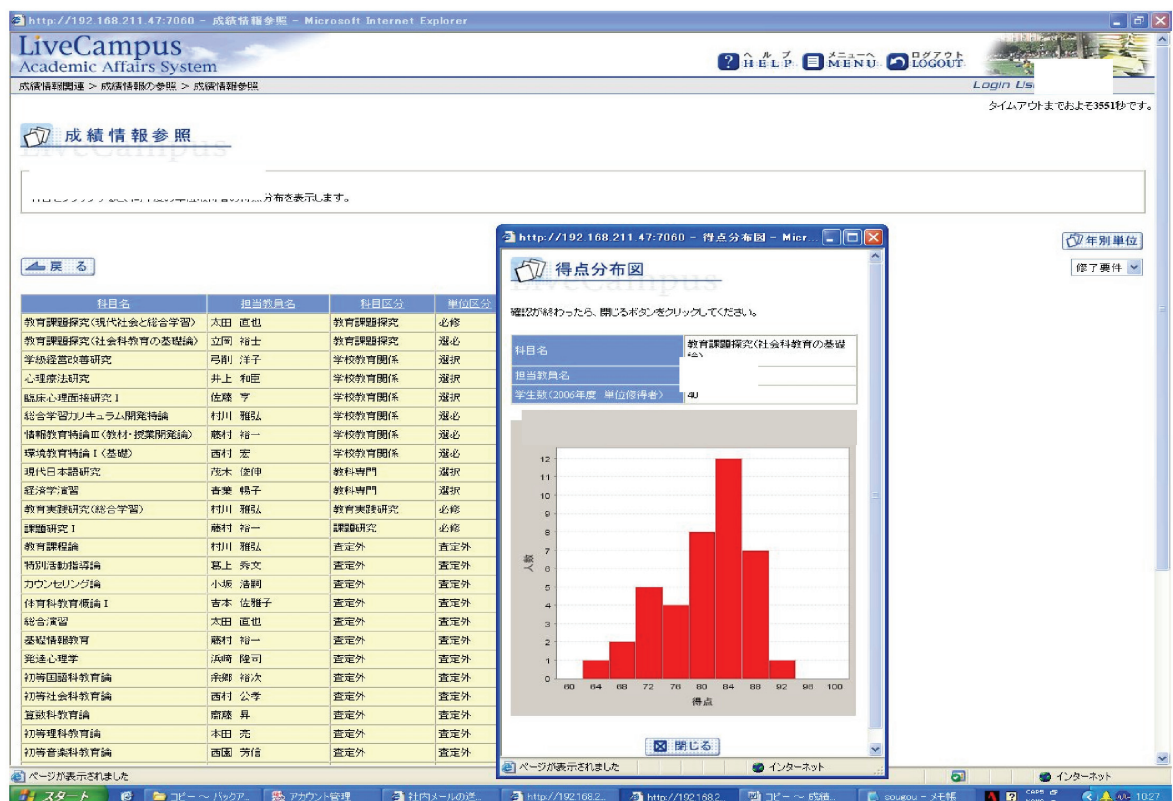
平成19年度

室名	開館日数	利用者数	備考
視聴覚室(1室)	332	532	
セミナー室(2室)		2,773	
研究個室(12室)		3,583	
合 計		6,888	

(出典 附属図書館資料：図書館内利用統計)

資料院3-2-2 「在学生の方へ」ライブ・キャンパス(在学生専用)

Academic Affairs System



(出典 ウェブページ「在学生の方へ」ライブ・キャンパス(在学生専用))

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

授業形態の組み合わせと学習指導法の工夫については、教育の専門職養成という学校教育研究科の目的に沿って、授業科目については、「講義」、「演習」等の明確な区分は設けず、授業の内容に応じて適宜、有効かつ多様な授業形態を採っている。また、指導法においても、「専門科目」、「教育実践研究」、「教育課題探究」それぞれにおいて、地域連携型授業、実習、フィールドワーク、模擬授業を取り入れた授業、現場教員との協働による実践的授業、少人数での講義と討論による授業等、授業内容に応じた適切な指導方法を工夫している。

さらに、研究指導に当たっては、研究指導教員による指導に加えて、指導教員以外の教員からも指導・助言を受ける体制を整備している。これらに加えて、センター教員による補充的な指導体制を整えている。

また、主体的な学習を促す取組については、授業担当教員に加え、研究指導教員による細やかな指導を行うなど、個々の院生の履修に対する指導体制が整っている。学習・研究環境についても、自習のための環境を十分に整備し、研究個室やセミナー室等の利用時間について便宜を図っている。

特に、「教育実践研究」等フィールドワーク型授業では、図書館セミナー室・研究個室等を使用する自主学習が積極的に行われるなど、効果があがっている。

さらに、単位の実質化に向けて、水曜の午後は、自主学習時間を確保するために、可能な限り授業を開講しないこととしている。また、前述の指導体制に加えて、シラバスで授業目的等の明確化を図るとともに、試験、レポート、授業への出席状況及び授業態度等を総合して評価を行い、単位の認定については目標達成度を5段階で評定している。このことは、シラバスに「成績評価方法」として明示している。

以上のことから、「期待される水準を上回っている」と判断できる。

分析項目Ⅳ 学業の成果

(1) 観点ごとの分析

観点 学生が身に付けた学力や資質・能力

(観点に係る状況)

教育の成果は、大学院の単位修得、修了及び学位取得、教育職員免許状一括申請件数、学生表彰の状況から判断することができる。

単位認定については、合格であるC判定以上の割合が97%を超えている(貼付資料院4-1-1)。

学位取得率については約95%、教育職員免許状一括申請件数については延べ237件であり、複数の免許を申請している(貼付資料院4-1-2、3)。

教育職員免許状以外の資格については、学校図書館司書教諭、学芸員の資格、臨床心理士の受験資格を取得している(1-9頁:貼付資料学2-2-2参照)。

学生表彰については、4年間で36件である(貼付資料院4-1-4)。

資料院4-1-1 「平成18年度各授業科目区分の成績評価」(大学院)

平成18年度各授業科目区分の成績評価(%)

		評定				
		S	A	B	C	D
大学院	教職基礎科目	35	51	12	1	1
	専門科目	42	46	7	1	4
	教育実践科目	74	21	2	0	2
	課題研究	70	27	2	0	2

(出典 教務課資料:「平成18年度各授業科目区分の成績評価」)

資料院4-1-2 「平成19年度学位取得率」(修士課程)

平成19年度学位取得率(修士課程)

2年次生(人)	232
修了生(人)	220
学位取得率(%)	94.83

※ 長期履修学生(68人)を除く。

(出典 教務課資料:「平成19年度学位取得率」(修士課程))

資料院4-1-3 「平成19年度教育職員免許状一括申請一覧表」(大学院)

平成19年度教育職員免許状一括申請件数一覧表

大学名 鳴門教育大学

学部・学科・コース	申請 人数	免許教科	左の免許教科に係る免許状種別申請件数																計		
			幼稚園			小学校			中学校			高等学校			養護			特別支援学校			
			専修	1種	2種	専修	1種	2種	専修	1種	2種	専修	1種	2種	専修	1種	2種	専修		1種	2種
学校教育研究科 学校教育専攻	63	国語	16			41			3			2			3					60	
		社会							13											13	
		地理歴史										8								8	
		公民										6								6	
		数学							7			6								13	
		理科							4			3								7	
		美術							1											1	
		保健体育							2			1								3	
		英語							3			2								5	
		農業										1								1	
障害児教育専攻	3					2												1		3	
		社会							1											1	
		公民										1								1	
教科・領域教育専攻	53		3			20												1		24	
		国語							9			10								19	
		社会							9											9	
		地理歴史										8								8	
		公民										6								6	
		数学							2			3								5	
		理科							8			8								16	
		音楽							3			3								6	
		英語							8			7								15	
		工業 商業										1 1								1 1	
計	119		19	0	0	63	0	0	73	0	0	77	0	3	0	0	2	0	0	237	

(出典 教務課資料:「平成19年度教育職員免許状一括申請一覧表」(大学院))

資料院 4-1-4 大学院生表彰件数一覧及び表彰一覧（抜粋）

大学院生表彰件数一覧

年 度	表彰件数
平成16年度	7
平成17年度	6
平成18年度	9
平成19年度	14
計	36

表 彰 一 覧（抜粋）

年 度	表 彰 事 由
16	第57回関西新制作展（絵画部門） 関西作家賞
	第55回四国インカレ陸上競技400m障害走 第1位入賞
	第59回徳島県展（洋画部門） 奨励賞
17	第21回全国教育系大学弓道選手権大会 準優勝
	第3回とくしま文学賞（文芸評論部門） 最優秀
	第41回関西国展（絵画） 新人賞
18	第59回関西新制作展 関西新作家賞
	第37回中国四国学生選手権水泳競技大会 男子 1500m自由形 第3位
	第2回マルチメディア学習教材活用国際コンテスト（日本国内の部） 優秀賞
19	第23回全国教育系大学弓道選手権大会 個人戦 準優勝
	第10回コンピュータ教育実践アイデア賞 実践事例アイデア集編集委員会 優秀賞
	第47回墨滴会全国書展 読売新聞社賞

【学部：11件，大学院：36件，団体：8件，計55件】

（出典 学生課資料：「大学院生表彰件数及び表彰一覧（抜粋）」）

観点 学業の成果に関する学生の評価

（観点到係る状況）

平成19年10月に、既修了者に対して実施したアンケート結果では、「本学で学んだことの成果」に対する設問「教育内容の理解度」については、「よい」「どちらかといえばよい」の肯定的意見が70%、「普通」が20%以上で、合計して95%以上の院生が、教育内容を理解している状況にある（貼付資料院 4-2-1）。

院生による授業評価については、個々の教員が分析・集計し、「授業評価実績報告書」としてまとめている。学業の到達度や満足度に関する評価項目、「教師の実践力の育成に役に立つ内容であった」、「この授業は、自分自身にとって満足できるものであった」については、概ね肯定的な意見が占めており、その一事例として貼付資料院 4-2-2を示す。

資料院 4-2-1 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（大学院修了者）
（平成19年10月実施）

Q8 本学で学んだことの成果について

	よい		どちらかといえばよい		普通		どちらかといえば悪い		悪い		有効回答件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
Q8-1 教育内容の理解度について	114	27.5%	194	46.7%	90	21.7%	15	3.6%	2	0.5%	415

（出典 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（大学院修了者））

資料院 4-2-2 「平成 18 年度大学院生による授業評価実績報告書」(抜粋)

大学院授業評価アンケート調査結果の集計・分析

		評価実施日	平成 19 年 2 月 16 日
授業科目名	学校精神保健学演習	学期・曜日・時限	後期 金曜日 2時限
授業区分	1. 基礎科目 2. 専攻科目(専門分野・教科教育分野)		
担当教官名		回答者数	49 名

1 アンケート [1] の集計と分析について

- 5 まったくそう思う 4 かなりそう思う 3 どちらともいえない
 2 あまりそう思わない 1 まったくそう思わない 無 未記入

番号	評価項目	評価番号					
		5	4	3	2	1	無
1	授業概要で紹介された授業計画は理解しやすく、適切であった。	33	15	1			
2	授業概要や授業中に紹介されたテキスト・参考書は役に立った。	-	-	-	-	-	-
3	授業の内容には一貫性があった。	36	12	1			
4	教師の実践力の育成に役立つ内容であった。	26	22		1		
5	授業開始時や途中の成績評価の方法は、具体的であった。	32	14	2	1		
6	授業をよく準備し、熱心に教えた。	46	2		1		
7	授業の進む速さは適切であった。	23	18	8			
8	受講生の理解度を確認しながら授業を進めた。	28	18	3			
9	受講生に授業への参加(質問、発言、討論など)をよく促した。	41	6	2			
10	教科書や参考書の使い方は適切であった。	-	-	-	-	-	-
11	視聴覚機器の使用は適切であった。	42	7				
12	配布された資料・文献等は、授業内容を理解する上で役に立った。	39	9	1			
13	受講生に分かりやすく説明した。	34	14	1			
14	教官の声は聞き取りやすかった。	27	17	5			
15	板書の文字は見やすかった。	20	19	9			1
16	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	35	12	2			
17	この授業は、自分自身にとって満足できるものであった。	38	10	1			

<分 析>

本授業では毎回実際の精神保健に関する事例を提示し、受講者全員が課題について考察し個人演習用紙に記入した上で、少人数のグループに分かれてディスカッションを行い、グループの見解を集約して全体へ発表するという形式を採用した。また発表の後、その回に取り上げた事例に関連する精神疾患や精神的問題についての概説を行った。さらに次回の授業では、必ず前回の事例演習の記載を集計し、受講者の着眼点の傾向を提示したり、疑問点として挙げられた事柄については補足して説明する等、受講者へのフィードバックを行った。

受講生の大半が授業に主体的、積極的に取り組み、授業は満足できるものであったと回答していた。全ての質問項目において評価の平均点は4点を上回っており、本授業は非常に高い評価を得られたものと考えられる。

今後は3「どちらともいえない」との回答がやや多かった、(7)「授業の進む速さは適切であった」、(14)「教員の声は聞き取りやすかった」、(15)「板書の文字は見やすかった」などの点についての対応・工夫を行いたい。

(出典 「平成 18 年度大学院生による授業評価実績報告書」)

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

院生が身に付けた学力や資質・能力について、単位認定については、合格であるC判定以上の割合(97%)、学位取得(取得率約95%)、教育職員免許状一括申請件数(申請者119人で237件申請)等の状況から、教育の成果はあがっている。

教育職員免許状以外の資格については、学校図書館司書教諭、学芸員の資格、臨床心理士の受験資格を取得する者もあり、院生の多様な教育ニーズに応えている。

学業の成果に関する院生の評価については、「既修了生に関するアンケート」「大学院生による授業評価」「学生生活実態調査」において、概ね肯定的な回答を得ている。

以上のことから、「期待される水準を上回っている」と判断できる。

分析項目Ⅴ 進路・就職の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 修了後の進路の状況

(観点に係る状況)

学校教育研究科修了生の進路・進学状況は貼付資料院5-1-1に示すとおりである。法人化後の平成16年度以降の、現職教員を除いた教員就職率は約40%であるが、連合大学院博士課程等への進学及び保育士、学校図書館司書教諭、臨床心理士等本学の教育の成果を活かした教職以外への職に就く者もあり、院生の多様な教育ニーズに応えている。

また、修了後の都道府県別教員就職先は、平成16年度以降の4年間では、関西、四国地域が中心である(貼付資料院5-1-2)。

なお、平成20年3月に、「長期履修学生制度」を活用した「学校教員養成プログラム」による第1期の院生が修了し、37名中30名(81%)が教職に就いている。

資料院5-1-1 「大学院修了者の進路状況」

大 学 院 修 了 者 の 進 路 状 況

(毎年9月30日現在)

区 分	修了者数	教 員 就 職 者							教員以外 の就職者	進学者	その他	教 員 就 職 率	
		小学校	中学校	高等学校	幼稚園	特別支援 学校(盲・ 聾・養護 学校)	その他	小 計				進学者除く	
平成16年3月修了	114	17(12)	13(11)	12(10)	1(0)	3(1)	8(4)	54(38)	31	3	26	47.4%	48.6%
平成17年3月修了	159	33(29)	6(4)	9(6)	1(1)	8(5)	11(7)	68(52)	60	2	29	42.8%	43.3%
平成18年3月修了	150	28(18)	18(11)	8(4)	1(1)	6(6)	4(2)	65(42)	48	9	28	43.3%	46.1%
平成19年3月修了	138	23(19)	14(9)	8(7)	1(0)	2(1)	1(0)	49(36)	63	8	18	35.5%	37.7%

(平成20年6月1日現在)

区 分	修了者数	教 員 就 職 者							教員臨時 待ち	教員以外 の就職者	進学者	その他	教 員 就 職 率	
		小学校	中学校	高等学校	幼稚園	特別支援 学校	その他	小 計					進学者除く	
平成20年3月修了	147	37(20)	15(14)	6(6)	3(1)	5(3)	5(0)	71(44)	2	50	3	21	48.3%	49.3%
長期履修学生(内数)	37	19(10)	6(6)	1(1)	2(1)	2(1)	0	30(19)	1	4	0	2	81.1%	81.1%

①修了者数は、現職教員を除く。

②()内の数は、期限付教員を内数で示す。

注) この状況報告は、毎年度3月修了者を対象としている。

(出典 学生課資料:「大学院修了者の進路状況」)

資料院5-1-2 「学校教育研究科都道府県別教員就職状況」

学校教育研究科都道府県別教員就職状況

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	計
平成17年3月卒業					1							2	3	2									1	1		1	5					2		1	28	3	5	5	1			1					6	68
平成18年3月卒業									1			1	2	2			2						3	1	1	2	8	8	1	2			1		16			1			1		1		3	1	7	65
平成19年3月卒業						1	1					1	2									2		2	1	5	4	1		1		2	1		11	3		4	1	1			1			1	3	49
平成20年3月卒業									1				3						1			2		2	1	9	5				1	1	3		18	2	4	3			3	1		1	1		5	67
合 計					1	1	1	1	1	1	3	6	9			2			1			8	2	5	5	27	17		2	1	1	6	4	1	73	8	9	13	2	1	4	2	2	1	4	2	21	247

(出典 学生課資料「学校教育研究科都道府県別教員就職状況」)

観点 関係者からの評価

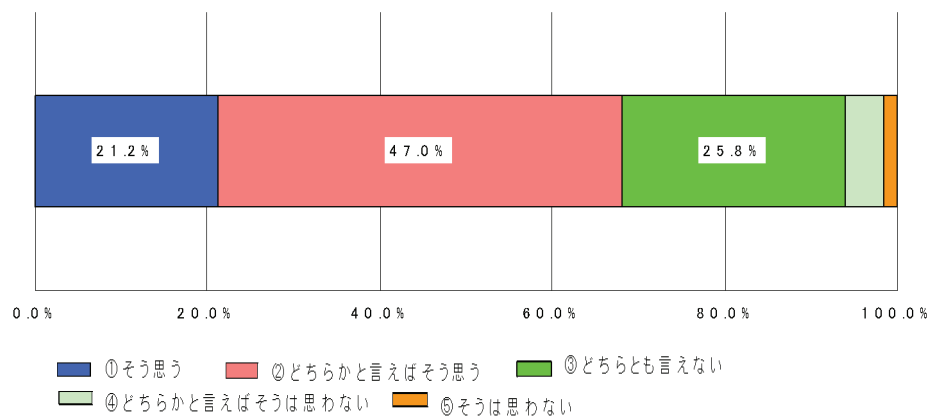
(観点に係る状況)

平成17年1月及び平成19年10月に実施した、徳島県下の教育委員会教育長や公立学校長を対象としたアンケート調査の結果、本学学校教育研究科修了生に対する「2年間学んできた教員を総合的に評価すると、満足できるかどうか」との問に対し、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の肯定的意見が68.2%である(貼付資料院5-2-1)。また、「総合的に評価して、教員として満足できる」との問に対し、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の肯定的意見が、平成19年度は66.1%と、比較的高い評価を得ている(貼付資料院5-2-2)。

資料院5-2-1 「鳴門教育大学におけるこれまでの教育研究に関するアンケート」

(平成17年1月実施)

派遣制度あるいは休職制度を利用し、鳴門教育大学大学院において2年間学んできた教員を総合的に評価すると、満足できるかどうか、①～⑤のうち当てはまるものに○をつけて下さい。(N=66)



(出典 「鳴門教育大学におけるこれまでの教育研究の実施状況及び地域社会との連携状況等報告書」)

資料院5-2-2 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」(教育長・公立学校長)

(平成19年10月実施)

Q5 鳴門教育大学の大学院を修了した教員の全体的な印象について、お教えてください。

	そう思う		どちらかといえば そう思う		どちらともいえない		どちらかといえば そうは思わない		そうは思わない		有効回答 件数
	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
1 教育者としての使命感や自覚がある。	70	24.5%	151	52.8%	62	21.7%	2	0.7%	1	0.3%	286
2 生徒(幼児・児童を含む。)に対する教育的愛情がある。	66	23.1%	141	49.3%	74	25.9%	5	1.7%	0	0.0%	286
3 広く豊かな教養がある。	55	19.2%	139	48.6%	87	30.4%	5	1.7%	0	0.0%	286
4 教科指導(授業)において実践的的力量がある。	63	22.2%	145	51.1%	70	24.6%	6	2.1%	0	0.0%	284
5 生徒指導において実践的的力量がある。	36	12.6%	125	43.7%	115	40.2%	9	3.1%	1	0.3%	286
6 学級経営において実践的的力量がある。	40	14.0%	128	44.9%	107	37.5%	9	3.2%	1	0.4%	285
7 保護者から教師として信頼されている。	48	16.8%	133	46.5%	101	35.3%	3	1.0%	1	0.3%	286
8 教職員組織の一員として、他の教職員との協調性がある。	48	16.9%	144	50.7%	80	28.2%	10	3.5%	2	0.7%	284
9 教職員組織において、指導力(リーダーシップ)がある。	36	12.6%	128	44.8%	112	39.2%	8	2.8%	2	0.7%	286
10 総合的に評価して、大学院を修了した教員として満足できる。	49	17.1%	140	49.0%	82	28.7%	14	4.9%	1	0.3%	286

(出典 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」(教育長・公立学校長))

(2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

教育現場の多様なニーズに沿った幅広い教育を行っていることから、修了後の進路の状況は、現職教員を除いた教員就職率は約 40%であるが、博士課程等への進学、保育士、学校図書館司書教諭及び臨床心理士等、本学での教育の成果を活かした職に就くなど幅広く活躍している。

また、「長期履修学生制度」を活用した「学校教員養成プログラム」による第 1 期修了生の教員就職率は、81%と高い状況にあることから、本制度が機能しているといえる。

関係者からの評価については、徳島県下の教育委員会教育長や公立学校長に対するアンケート調査結果において、教員の資質や能力について概ね高い評価を得ている。これらのことから、本学の教育大学としての目標を達成しており、教育面での成果があがっている。

以上のことから、「期待される水準を上回る」と判断できる。

Ⅲ 質の向上度の判断

①事例１「教育実践学を核とするカリキュラムの見直し」（分析項目Ⅱ）

（質の向上があったと判断する取組）

院生に対して、より実践的で質の高い教育研究が行えるように、法人化以降大学院の科目区分と内容を改編している（[２－６頁：貼付資料院２－１－１参照](#)）。改編の特徴は、理論と実践の融合を図り、高度な実践的力量を育成するために、従来の科目区分は「基礎科目」と「専門科目」の２領域であったが、平成１７年度から「教職基礎科目」、「専門科目」、「教育実践研究」及び「課題研究」の４領域で構成するカリキュラムへと改編した（[２－６頁：貼付資料院２－１－２参照](#)）。

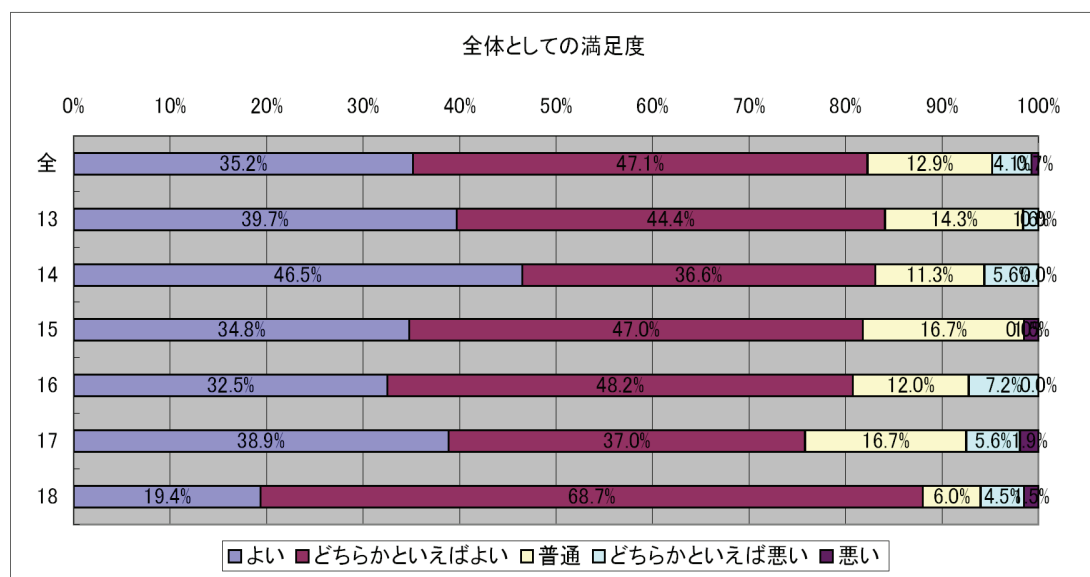
平成１９年１０月に実施した修了生へのアンケート結果によると、平成１７年度修了生（改編前）と比較して、平成１８年度修了生（改編後）の「大学教育への満足度」は高くなっており、本学のカリキュラム改編への取り組みの成果が認められる（[貼付資料院６－１－１](#)）。

また、徳島県下の教育委員会教育長、公立学校長へのアンケートによると、平成１７年１月の調査（[貼付資料院６－１－２](#)）と、平成１９年１０月の調査（[２－１６頁：貼付資料院５－２－２参照](#)）の比較では、設定した全ての項目で１９年度の調査結果が上回っていることから、本学修了生の教員としての力量の高まりを示す結果となっており、教育の成果があがっている。

以上のことから、法人化以降現時点に至るまで高い教育水準を維持している。

資料院６－１－１ 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」（大学院修了者）
（平成１９年１０月実施）

Q8-3	全体としての満足度（社会に出て、本学の教育内容が役立っていることも含みます。）	よい		どちらかといえばよい		普通		どちらかといえば悪い		悪い		有効回答件数
		件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	件数	%	
全	大学院修了者全体	145	35.2%	194	47.1%	53	12.9%	17	4.1%	3	0.7%	412
13	平成14年3月	25	39.7%	28	44.4%	9	14.3%	1	1.6%	0	0.0%	63
14	平成14年4月～平成15年3月	33	46.5%	26	36.6%	8	11.3%	4	5.6%	0	0.0%	71
15	平成15年4月～平成16年3月	23	34.8%	31	47.0%	11	16.7%	0	0.0%	1	1.5%	66
16	平成16年4月～平成17年3月	27	32.5%	40	48.2%	10	12.0%	6	7.2%	0	0.0%	83
17	平成17年4月～平成18年3月	21	38.9%	20	37.0%	9	16.7%	3	5.6%	1	1.9%	54
18	平成18年4月～平成19年3月	13	19.4%	46	68.7%	4	6.0%	3	4.5%	1	1.5%	67



（出典 「鳴門教育大学の教育等に関するアンケート集計」）

資料院 6－1－2 「鳴門教育大学の教育についてのアンケート集計」（教育長・公立学校長）
（平成 17 年 1 月実施）

問1 鳴門教育大学を卒業した教員の印象について、次の①～⑤のうち当てはまるものに○をつけて下さい。

- ① そう思う
② どちらかといえばそう思う
③ どちらとも言えない
④ どちらかといえばそうは思わない
⑤ そうは思わない

(単位:人)	①そう思う		②どちらかといえばそう思う		③どちらとも言えない		④どちらかといえばそうは思わない		⑤そうは思わない		無回答
合計	93	16.4%	254	44.8%	197	34.7%	19	3.4%	4	0.7%	
(1)教育者としての使命感や自覚がある。	21	33.3%	29	46.0%	12	19.0%	0	0.0%	1	1.6%	17
(2)生徒(幼児・児童を含む)に対する教育的愛情がある。	24	38.1%	27	42.9%	10	15.9%	2	3.2%	0	0.0%	17
(3)広く豊かな教養がある。	9	14.3%	22	34.9%	29	46.0%	2	3.2%	1	1.6%	17
(4)教科指導(授業)において実践的力がある。	11	17.5%	29	46.0%	21	33.3%	2	3.2%	0	0.0%	17
(5)生徒指導において実践的力がある。	4	6.3%	27	42.9%	28	44.4%	3	4.8%	1	1.6%	17
(6)学級経営において実践的力がある。	3	4.8%	28	44.4%	28	44.4%	4	6.3%	0	0.0%	17
(7)保護者から教師として信頼されている。	9	14.3%	31	49.2%	21	33.3%	1	1.6%	1	1.6%	17
(8)教職員組織の一員として、他の教職員との協調性がある。	9	14.3%	40	63.5%	12	19.0%	2	3.2%	0	0.0%	17
(9)教職員組織において、指導力(リーダーシップ)がある。	3	4.8%	21	33.3%	36	57.1%	3	4.8%	0	0.0%	17

(出典「鳴門教育大学の教育についてのアンケート集計」（教育長・公立学校長）)

②事例 2 「長期履修学生制度の導入による教育」（分析項目Ⅱ）

(質の向上があったと判断する取組)

分析項目Ⅱでも述べたとおり、法人化後の平成 17 年度から、教育職員免許状取得を希望する院生のニーズに応えるために、3 年間の在学期間で、修士の学位取得及び幼稚園・小学校・中学校のいずれかの教育職員免許状の取得を可能にするために「長期履修学生制度」を活用した「学校教員養成プログラム」を開発・導入している。

この学校教員養成プログラムにおいては、3 年間を通じた体系的かつ計画的なカリキュラム編成及び実地教育の実施により、教育実践力を有する教員の養成を行うことができた。

平成 20 年 3 月に、本制度の第 1 期修了生 37 名中 30 名(81%)が教員になっている。このように、本取組は教育実践力のある学校教員としての資質を備え、かつ、教職に関する高度で専門的な知識を習得することを目的に入学した院生のニーズに十分応えている。

以上のことから、法人化以降現時点に至るまでの教育の質を向上させる優れた取り組みであるといえる。